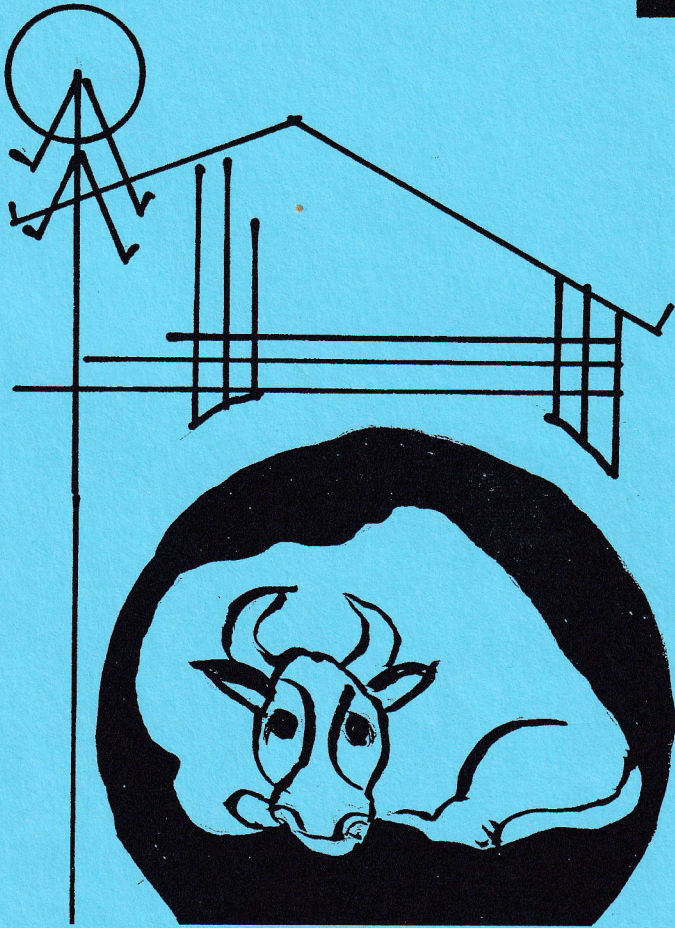


野津原方言集

続編 11



野津原方言集 続編No.11

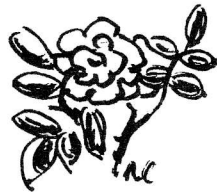
題字-----姫野順子
表紙画-----古磨丹生
カット-----カット集団

★ ご協力いただいた皆様 ★

立川寛一、工藤志津雄、小野昂、赤星節雄、田浦一功、
大久保保誠、利光友幸、後藤百由、和田健司、佐藤吉晴、
利光節子、岡本政雄、寺司勝次郎、川西哲男、後藤ヨカ
野津原地区公民館、野津原商工会、同青年部女性部。

★ ご利用させていただいた資料 ★

野津原本町大山車曳き資料。野津原商工会青年部資料、
野津原文化協会演劇部資料。野津原読み聞かせ会資料。
月の歌会資料。野津原歴史記録会資料。街道物語資料。
野津原文化財調査こぼれ話資料。若草子供会資料。
懐かしい唄を生演奏で楽しむ集い資料。各地方言資料。



野津原方言集 続編No.11 平成22年10月発行

野津原方言調査会

目次

見出し	1
目次	2
はじめに	4
方言単語あつまれ 『あ』	5
ちよつとぶく	17
方言子供ん世界	21
狸をだました五助さん	22
もらった葛の味	24
炭の重さと人の情け	27
方言説明	28
ふるさとの味	31
いりこ味噌	32
一合雑炊二合粥	35
方言説明	36
亥の子餅	38
ビリビヤキ	43
サケモチ	44
オハギ	45
方言説明	46
五助街道物語	47
赤坂上り坂	48
橋本橋、法泉寺	49
養姉の心くばり	50
街道地図	51
蕪取り、馬子唄	52
方言説明	53
水不足が『お陣家』変更	54
お茶の宴、お茶飲み	55
方言説明	56

女性の底力	57
心豊かななら年も感じぬ	58
七瀬音頭の振りに執念	59
盛り上がった大山車	60
方言説明	62
玉手箱	63
農業組合	64
農休日	65
子供会の活動	66
方言説明	68
ふるさとん唄	69
明るい茶の間、母子舟、故郷の十三夜	70
可愛い菊の花、朝顔、野津原民謡	71
迷路は唄う、宇曾山様も	72
朝のジョギング	73
馬子唄口説き	74
民話、伝承	75
ウナギがおらんごつなつた	76
竜の恩返し	78
方言説明	80
諏訪さま祭り、諏訪の恋い歌	81
半夏至水じ田植え	83
方言説明	86
方言単語あつまれ 『あ』	87
五助あげん話こげな話	93
あとがき	99
伝言板	100



はじめに

平成4年の取り組みを始めた当時は 8人でしたが16年目の今年のメンバーは 半分になりました。よくもまあ続いたと振り返ると ご支援ご協力の資料があり 積極的に古い歴史を話してくださるから。15年で終幕にしようと 意見もあったのですが折角の 『今だから残せる』そんな魅力が 継続する気持ちを再度 奮い立たせたのかも知れません。

平成15年度には野津原支所の 取り組みとして『ふるさとの民話から一のつける物語』と 『方言で語る野津原の歴史と文化』の 本の発行にお手伝いする事も出来ました。とにかく記録に残しておけば 将来これらの調査研究に役立つと 素人集団が全て手づくり冊子とて 残せたと感謝しています。

続編№11《通算19》には 平成19年に野津原商工会の青年部が 切り開いた『肥後街道』のうち 野津原一の瀬から今市小無田までの かつての道中物語風に馬子の五助さんがつれづれに話し語る 散文を5回に別けて取り上げる予定で美しい参勤交代道が大切に保存されてる。そんな道の夢とロマンを歩いて行きます。

方言単語あつまれ…多くの単語《方言でないものや 差別語なども多少はいつていると思いますが 方言集の性質上お許しください》を 使い分けた優しい説明も並べました。単語集の約12000語をさらに分けるので 続く限り掲載して行くことにしています。引き続いてご愛読のほど お願い申し上げます。方言の語源やその流れなどの 繊細な内容はまだまだ調査の 段階の域に達していませんので その点もご了承ください。

野津原方言調査会 スタッフ一同

◇◇◇ 方言単語あつまれ ◇◇◇

言葉は動物ん中じ人間だけが 使いきる誰一ん財産じゃきたとえ 書けんでん話す語るこたゑ出来るき それだけでん充分気持ちが 心が通ずるこちいなる。そげな言葉ん組み合わしいよっち いろいろん生活用語も作られ 使われ 広がっち定着したんが 『方言』じあるんじゃろう。

そん方言に帽子をかぶせ 着物着せちみると なんとん言えんエエラシイ言葉 優しゅうじ上品な言葉 心んこもる涙ん出るごたる言葉 人が語る 話すだけじ こげえまじ相手に響き伝わる言葉 そきい方言のよさがあるんじゃろう。単語が組み合う時 考えられんごたる 美しい言葉が 語り語が 話し言葉が作り出されち 来たんじゃろう。

古くかるん生活用語ん方言 それがやんがち人ん 行き来が多うなると入っち来た人ん 持ちくうだ方言と 育つたた方言とが 結ばれたあげくに 新しい方言も生まるる。

入れ薬屋さんが全国を回っち 各所ん方言め上手に使うと いつんなかめ一か 帰った後じ真似しよる。そしちクスッ 一人笑い。言葉はそげな癒し和みまじ 飛び回っちよる。

野津原でん生活用語ん方言が いっぱい使われ語られ話す事じ 生かされ生きち広まっちよる。無意識に使う事も 意識しち上品に使う事も 無理に品よう使う事も。それが 楽しい言葉ん使い方 語りかたかん知れん。それじいいん じゃねえかな。折角ある言葉を 大事に上手に使う時に そん方言も 言葉も喜んじくるる事 請合い。



方言単語あつまれ

五助さんがなに言いだすかち 思うたら朝間仕事した 若えしが『ウロイヨコイ』じゃき 話聞きてえちもう 押しかけち来たもんじゃき おみつ。『はよ 開けちゃんな』 五助からせき立てられち開けたら 野菜やら草切りん時 あったんか山ユリも束ねち来た。悪いなち言わんばかりに。

囲炉裏ばて一並うじ おみつがシコした茶が 盆にゃ駄賃取りん帰り道じ買うたんか せんべえが行儀ゆう並うじよる。タバコん煙りが囲炉裏ん煙りと 混ざっちユラユラ上がっちいく。

いちいちいわんでん、いろみゅう使うな、いんじくる、いらんしよわ。一解ったで『1ん字のい』が入った言葉。頭んいい若えのが先頭きった。『お前やっぱ さじいの』『今年ゃ俺ん干支じゃきの』 皆も心ん中じゃ負けたハゲラも さも じゃけんど憎しみはねえじ 『さすが』ち褒めちよつた。

★ いっぺんいっぺん言わなくても。ウインクするな一好きな相手に目で合図する様。帰って来ます。おせっかいは無用です。こんな意味が入っています。

『ほんなこんだ2のにど』 にてんにつかん、にいったごたる、にれっとしち、にじくる。『ちっと難しいかの』 だいたいは解ちよるけんど 自信がねえんか…『ちっと難しいの』 五助さんに誘い水向けた。『考えちゃどげーか』『ちった解るごたるが』 五助さんに花も持たする気くばりに 五助さんも嬉しかった。

★ 似たようじゃが比ぶればとても。寝いったようで。うす気味悪い冷たい笑顔。無理強いして塗る様。こげな意味。

3『さ』じゃの　さんちんめし、させあつめち、さかくじゅこぬる、さらゆりゃ。『解ったで　俺かたいつでんサンチン飯じゃき』『や　やんかたいつもや』『そうど　お前方どまどげ一か』『俺かたもそうじゃがえ』　皆んなドッと笑うたき　五助さんも涙ふきふき喜かうだ。

涙が流れたんも　煙てえだけじゃねえごたる。若いもんの心優しいそげな　言葉んやりとりが無性に嬉しい。『次あ4　『しの字がつくもん』　しかとしもねえ、しれたこつう、しかばのう、しいちよる。『こんだ　けっくしゃ』『ふんどのや』　日頃簡単に使いよんに　さあそん訳う言うになると　頭うひねる。しもうた『脳みそ入れ替えちよきゃよかった』。『やんなどこじ入れ替ゆるんか』『大道あるち言いよったど』『へーふんとな五助さん』『やーあるか知れんど』

味噌屋じ　入れ替えたちしてん　そりゃ無理かんしれんが。こげな話しをするのが　つまり叶わない理屈なのです。解っている常識道理の事。葬式に使う紙で作った捨て花《地方によって異なる》。好いてる事　羨ましく思っ見て見る目。人の心にゃ言葉とは裏腹に　想い方が変わって写し取れるもの。

5『この字じゃの』　ごととんせん、ごーらいた、ごうそうあつむりゃ、ごせんとぐち。『こんだテンショムショ解らんのう』『ふんとじゃ　五助さん助けて』『何やふんと弱虫じゃのう』　『落ち着いち考ゆりゃ……』　慌てず落ち着いて判断する。汚れている犬。ごみや散らばった物を集めれば。玄関口に当たる場所の戸口。

ごーらいた…語源なともかくとしち言葉だけじゃ　考えも及ばん意味が隠れちよる方言。そん方言が出来たんもそれなりん　訳があっちこす出来たそう思うと大事せにゃならんち　思うが方言に対する想い。

6『む』の字が来たど 『むげねえ事が多いんじゃねえ』
世の中いつもウマイコタ行かんきの 時にゃそりゅ乗り越え
ちこす 生きちよるかもある。『無利ゃ言わんど』『いん
げいいんで やっぱ頭ん訓練になるのや』 応援ぬしちくり
いち 言いてえぬ えーと切り抜けた。

むごたらしい、むげねこされ、むこずれはち、むらはちぶ、
『さぁこげなんなどけーか』『りゃーむげなぎーごたるな』
『おおかた解るんじやのう』『いんげとてん』 いや方言の
中でん上物かん知れん。見るに見兼ねるような残酷、悲恋、
哀れさを。可愛いそうで同情する。顔の上額に蜂がチクリ、
衝撃を受ける瞬間。江戸期間にはあった社会差別、思い当た
る欠点があるのか 然し火災と葬儀は平等にしたので 残り
八分から言われた。

名誉挽回じ8『は』は昔かる末広がりち言う。縁起もよかつ
たが油断な禁物ど。だれかそけー股う広げち 蜂がさしたや
ショワねえんか 早うアンモニヤでん塗っちよけ。はっちょ
ぎね、はっちいでん、はたかりしこ、はえたか。『ありゃみ
よハタカッタき方言も出た。若い者たちちちと色がつきゃ
笑顔もほころぶ年頃でんある。

餅つきん時つくしが多いと 待ち遠しいもんじゃき こねた
あたゃ寄っちたかちつく。人数が多いき大勢じつくぬ ゴ
ロ合わせゆう『八丁杵』ち 言うたんが いつんなかめーか
何人もじつくぬ…こげ一呼ぶ。物貰い接待施しを受けて旅を
する人でも。大きく股を広げている様。生えるのは歯もあり
うぶ毛もあり毛もある。喜びの第一段階だろう。

こげなふうにならぬと数も増えちくると 頭ん回りも早うなるきのや
五助さん ちと慌てよるごたると。もう9…くになった。

次は9 くじゃの。もう終わりになるんかなあ 『ちょいと待て お前どうイレクッタノ』『どしちえ』『ヒチムツカシイチ思うたんか 7『な』がねえど』『ありゃふんとじやったな ご免ご免』『困んのう あんまりテヌキゅすんなや』

そん7な にいこうかち 五助さんも一つ早まるぬ やっぱ気がとがめちへモドツタ。『悪かったなあ五助さん』『コラエナァエ』『いいんど心配すんな』ほんないくど…ナカツクロイ、ナニヤナンデン、ナンカナシ、ナロードチ、ナマズウ。

★ 仲介する 中で世話をやく 仲裁をする。とにかく何ごとによらず。いずれにしても 何はともかく。なるようにしかならない そんな決まり巡り合わせ。生の状態でこの方言の場合は生々しい死体。こんな意味があるのです。

へモドツタき暇がのうなつたど 次ゃ残った9 く、じゃの。『五助さんすまんじやったなえ』『いいどスマニヤ泳げ』『こりゃ参った 俺泳げんに』『なんやドンナのう』9ちゅうと 苦しを思うがそれもあるが 数んおしまいじ大事な役目ん数でんある。

くじゅうこぬる、ぐつにゅうんくし、くらする、くるわるる。★ 愚痴や反対意見を言って困らせる。歯切れの悪い決断力のない癖に。叩かれる、ひどい仕打ちをする。叱られる、失敗に激しく責められる。7を忘たしゃクルワルルところじゃつた。えーと数字かる寄せた面白い 方言遊びじゃつたが こげな方法なら思わん ほ覚えられち面白い。

方言説明

- 6 P だすかち…だすだろうと。もんじゃき…ものですから。
開けちゃらにゃ…開けてあげないと。さじいのう…早く
抜け目のない。はげらしさ…はがゆくて気が動転する。
じゃけんど…ですけれども。どげーか…どうですか。
- 7 P お前方どまどげーか…貴方の家ではどうですか、貴方の
考えはどんなふうでしょう。やんな…貴方は、お前は、
同僚ゃ目下の人に対して呼ぶ…普通の呼びかけ言葉。
へーふんとや…ほうそうですか、なるほどそのようです
か。
- 8 P ウマイコタ…この場合は調子のよいことは、予定通りに
行かない。いんげいいんで…いいえよいのですよ、結構
なんですよ、無理しなくても本当によいのです。やっぱ
…やはり。しちくりーち…してくださいと、してほしい
のですが、是非してほしいと言うので。むげなぎい…か
わいそうで本当に 気の毒に同情。いんげとてん…いい
えとても。さしたや…刺したのか、このばあい蜂の被害
場面。さしたや…指す、刺す、射す、差す、などがあり
ます。あたー…後は。たかっち…寄り集まって、一度に
大勢が寄り、狙われて集まる。なかめーか…知らぬ間に
集まる、よく見たら集まっている、知らぬ間に。



方言は古い時代から生活用語として 使われながらその言葉の中に 暖かな人の心が巧みに使われ しかも凝縮してあってもすぐ 理解できるのは慣れ親しまれた 人間の優しさが一緒に通うから。さらに他から入った方言でも すぐ溶けこめるのも 受け入れようとする 人間本来の心根がそうさせてもいる。ように思われます。

方言単語あつまれ…何回かに別けて心に染みこんだ 心暖かな方言を綴りましょう。必ずしも方言でない 単語もあるでしょうが 方言でなくても古い生活用語なら 仲間に入れて消えるかも知れない 言葉を集まってもらいました。単語約15000語の中から……………

アーモウ……………あらら 本当に。
アーンシナ……………はい 口を開けて。
アーソウ……………あら そうですか。
アーデンネェ……………違うのではない。
アーイヤアコウユウ……………いつも 反対を言い張る。
アー……………はい 解ったよ。

アーから始まる 少し間をおいた 優しい心くぼりが昔んしの奥ゆかしさか。続きにどぎつい言葉になっても 余裕な時間を持たせる そこに人の心を大切にする 心の余裕が行き来する一時。

アーソリャワリー……………笑顔がいっしゅん怖い顔に。
アーナシソゲンコツ……………なでそんな事を、知らないで。
アーソウカ……………怒った、次の言葉が怖い。
アーモフント……………違う事、そんな事くらい。
アーセニャ……………こんなふうにしなないと。
アーイイデ……………勝手にすればいい、知らない。

こんなふうに言い出しや続く言葉が 怒り、喜び、教え
慰め、謎かけ、予告、驚き、にも変化してゆくから 言葉
ひとつでも相手には 取りかたで喜び 悲しみ 打撃 な
どとなって入ってゆくもの。古い生活用語の方言は それ
らを上手に楽しい物に変えて 生活上手の便法にしていた
と しみじみ思われます。

アーンシナ アーンシチョケ……おいしい物を食べさせ
たい そんな微笑ましい場面が 醸しだされています。心
が優しく豊かであれば ごく自然にこんな言葉単語も 出
るもの。そんな豊かな思い方が ごく当たり前にあった。
だから方言に混められた思いは 粗末にはしてはならないと
も 思われますし 失われつつあるのは 惜しい事です。

あつまった『ア』から 単語を並べて悲喜こもごもの
人生の裏表を綴ってみました。

アーンシクレン……あのようにしてくれませんか。
アーンイヤ……あんなに言うと、続くと反発でしょう。
アーンセニャ……あのようにしないと、教えたのですが。
アーンソウカ……そうだったのか、理屈が解った。
アーントン……あのようなだから、意味が解ったの。
アーンテチ……慌てて、早口に言う方言の典型的。
アーンナキ……後ろ向きに、転ぶ、かやる直前。
アーン……はい、相手の言葉が了解できた、同意。
アーンシチョケ……しておきなさい、命令的な方言。
アーンアイイ……好感、喜ぶ状況、了解の返事、同意。
アーンデンネエ……あんなでもないのに、ちがうけど。
アーンモウ……あら大変、本当に予想外な、しまった。
アーンイトネエ……逢いたくない、嫌いか病身なのか。
アーンイラシゲネエ……可憐、可愛いらしい笑顔。

アイコ……………おなじです。アイツガエ…あの人ですか。
アイスワライ……………似せ笑い。アイマイジ……………中途半端な。
アイヨリ……………出会い寄り。アイタ……………あの方は、痛い。
アイナカ……………間の中を。アイチュウ……………相手を。
アイニャ……………中には、時には。アイチョル……………開いている。
アイニ……………逢いに、中には。アイ……………鮎、はいの返事。
アイツン……………あの人。アイブサイ……………気心の相違。

アイコジャ……………おなじで。アイシナ……………逢ってすぐ。
アイトデン……………あいたくても。アイチュウ……………相手を。
アイカト……………相手の人を。アイタガッチ……………再会希望で。
アイクチャ……………気性が逢えば。アイラシゲネ……………可愛いくて。
アイコジ……………同じ意味で。アイタマァ……………あの方はまあ。
アイスロウ……………上手な付き合い。アイコデ……………同じですよ。
アイサタ……………あいさつは。アイツ……………あの方は。

アイコ、アイコジャ、アイコデ、アイコジ、のように同じアイコでも気持ちとしては かなり違った想いがある。アイコジャ⇒決めつける。アイコデ⇒いいでしょ。アイコジ⇒どうな。同じ言葉のようでも 優しさ暖かさの違いが伝わる。その答えはやはり 怒り、笑顔に、いいよ、と心は帰る。

アイタヨウ……………吃驚痛み。アイネンシ……………相寄り年始。
アイビキュウ……………デートする。アイメー……………逢うまい。
アイジュウ……………愛情。アイヨク……………逢っている。
アイチョル……………開いている。アイヨリャ……………逢ってれば。
アイテン……………開いていても。アイニデン……………中にもいるか。
アイチキタ……………飽き飽きする。アイタト……………開いたようだ。
アイタカ……………開きました。アイタンナ……………開きましたか。

アウに進んじみましよう。けっくしゃ解らんがあるんじゃ。

アウに始まる方言には『逢う』『会う』などと『合う』蓋が合うのように 人の出会いや 物がきちんと整うことなんかが 使われます。

アウコタナカロウ……………会わなくてもよいのでは。
アウンナラハヨウ……………会うなら早いが良い。
アウメゴタル……………会えないだろうが。
アウチュウタモン……………会うと言っていたので。
アウカン……………会うかも、たぶん会うのでは。
アウアウ……………会いますよ、会うから心配しなくて。
アウナオーテン……………会うのはあうけれど、気乗りしない。

これらに対しち物の整う『合う』ん場合は

アウアウ……………やはり合いますよ、ぴったりです。
アウカン……………合うと思います、たぶん合うでしょう。
アウキ……………合いますから、心配しなくても。
アウケン……………合います、充分まにあいますから。
アウコチ……………合うことになりました、合えば心配なし。
アウシニャ……………合う人には、合う事が決まった人で。
アウ……………合います、都合よく似合いそうで、合格。

こげなふうに方言な 言葉ん前や続く後ん言葉じ 生きている方言になります。人と人が出会うだけでん こげなふうに使ひ回しが多いき 方言も広がち行くんじゃろう。じゃが時にゃそれが縮まってん 意味が通ずる時じゃつてんある。そこに方言が生活に密着しち 心を通わする道具にもなったんじゃろう。

★ コイサ会うコチナッコル…今夜会う事に。
コンダユウ合うたゴタル…うまく合つたな。
逢うたなタマタマジヤガ…偶然の出会いじ。



アエに行くこちいしましょう　ここでん『アエタ』は物が
落つる、物を和える、人に和え会えた、なんかに別るるこち
なる。

アエタ……………逢えました。アエテン……………逢えても。
アエタンナラ……………逢うことがてきたのなら。
アエンゴタリヤ……………逢えないようなら、逢えねば。
アエレチヨカッタ……………逢えてよかった、希望が叶った。
アエルリヤシヨワネエ……………逢えるなら大丈夫。
アエ……………逢いなさい。アエル……………逢えますから。
アエメエ……………逢えないのでは、逢えないかも知れない。
アエンカン……………逢えないかも、逢えないほうが強い。

アエタ……………和えました。アエ……………和えて、和え料理。
アエルキ……………和えますから。アエメエ……………和えまい。
アエタナクイゴロ……………和えたのは丁度食べ頃。
アエチヨリヤ……………和えている時に、和えていたところ。
アエテン……………和えても。アエシコ……………和えるだけ。
アエクル……………和え混ぜる。アエル……………和えましょう。
アエンカン……………和えないかも、和えないままにして。

アエクッチョル……………冗談に笑わせるような仕種。
アエタナクイゴロ……………落ちてすぐなら食べられる。
アエタリヤ……………落ちたなら。アエタンナ……………落ちたの。
アエタナクウナ……………落ちたのは食べないほうがいい。
アエ……………落ちる。アエチヨリヤ……………落ちている。
アエシコ……………ほとんど落ちている、よく落ちたもの。
アエンカン……………落ちないかも、なかなか落ちなくて。
アエンコタ……………落ちないはずはない、落ちないかな。

このように『逢えた　会う、和える』などさまざまに。

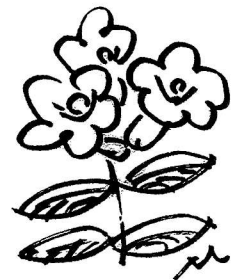
アオドチ……………会うつもりで。逢うのがよいと思って。
アオウタオモワン……………会う予定はない。逢わないがよい。
アオウヤ……………逢いましょう。アオート……………逢うことに。
アオミガダタ…青くなった。アオザメチ……………青くなった。
アオッチョル……………鮮やかに。アオガエッチ……………生气回復。
アオナッタ……………青くなった、生气を失った様相。
アオガリヤ…早めの稲刈り。アオグリー……………青く汚れて。
アオビョウタン……………色が悪くて、病身な有様。

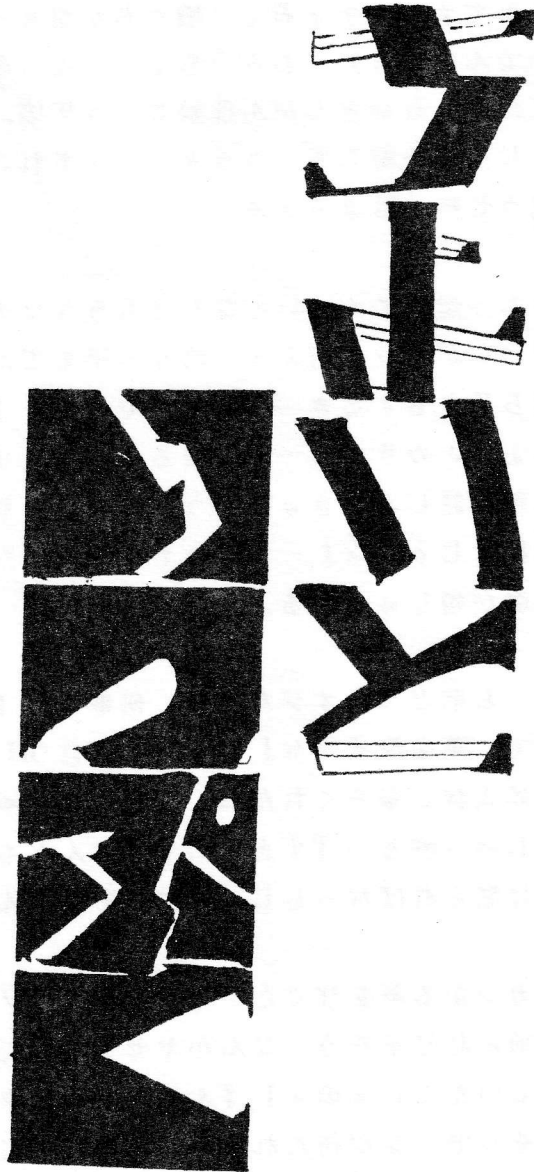
アオフキヨル……………泡を吹いて倒れる。アオヤ……………会う。
アオムキャ……………後ろ向きに。アオン……………青の。
アオリサゲーチ……………おだて挙げて調子乗せる。
アオノキ……………後ろ向きに。アオジ……………青です。

★ 逢おう、会う、それに青、青色に関わるもん 方言
な言葉じゃなかなか解り難いが、字になると納得。
このように 広がりがある方言にゃ 生活用語かる
人ん心が込められる事で さらに広がって行くごた
る。ア行の中から ア、イ、ウ、エ、オ、まで辿っ
て来た方言は約130語。使われなくなっても 心
ん中にゃ今も生き続けているんです。

《16

アーイヤコウユウ…これを方言にすると『ネッチスリ
ガウ』ちなる。アンゲコンゲユウテン…方言じ『ヘン
ジョコンゴイウユウテン』になる。奥深い意味が込めら
れた 気持ちを伝えたい やるせない心の乱れ。そこに
方言の暖かさ 情愛のこまやかさが
そっとふくまれているよう。伊達に
使っているのではない 先人の心
が行き来する現われかも知れない。心
が込められているから……………。





五助さんかてネーコチィ若え 娘たちか集まっちよるんは『口見舞いでんいいき』 おみつちゃんがん 顔見に行こうえち来たごたる。五助さんがん孫娘じもう年頃。近所ん娘たちが仲良しじゃき心配しち ユウタモンノあれこれ みんなが風呂敷包うじ持つちきちよる。

『ありゃもう起けてんいいんな』『もうユウナツタデ』 顔色こす青白いがヤッパ若えき 治りも早えごたる。顔見合わすりゃ落ち着きもするき 話が弾みで一た。『あら五助さんな』『ちよいとカサまじ…すぐ帰るきユックリシチ』『今日は こん前ん話しん続きゅ聞こうかち』『そりゃ喜ぶじゃろうえ 話好きじゃきな』 おみつも話好きん五助さんがん そん時ん顔が嬉しゅもある。

『ありゃ お前どうオオジカケジ 何事か』『りゃー見舞いに来たんで 茶を汲まんな』『又トワズ言う』 五助も嬉しかった。多人数じ来ちくれたぬ おみつよりゃ喜ぶごたるんが 物腰じゆう解る。『すまんのや けんどもう元気なっちかる 俺は怒られればなっしじゃ 助けちくれんかのう』

火鉢んヤカンかる茶を注ぐと 『まゝ茶でんノンじくりーそりいこん前ん話じゃろう なんかヤゼンナ夢見が悪かったな これじゃつたんじゃのう』『ふんとすぐ憎タレグチ言う……ケンドそんで 話が待たれちよるち言わんじゃつた』『そりゃ言いよったのう』 五助さんも調子う合わせた。

おみつが戸棚かるキンポーを 皿に盛っちみんながん前に出した。『キンポーナ ウットウ好きじゃが』『そうな早うツマミヨ』『オーキニ』 出した手先は荒れて見るのも気の毒。『あんた手が荒れちよること どしたんな』『ウンなんか虫がセータンジャロウナエ』 五助も目ざとく見た。

『ドウ見せちみよ』 五助さんがん診たてじゃオゴゼが射した跡んごたる。『いっときすりゃユウなるじゃろうがあんまり コスリマワサンほうがいいど』『そっじゃろうかオーキニ』『若えきすぐ赤うなるけんど そりゃ血の巡りがいい証拠じゃきの』 藪医者そこのけん診断。

『若えち油断すんなや すぐ おみつんごつ寝こんじしまうど』『ショワネーチャ フント』 若い娘たちは顔見合わせちクスクス笑う。『なんや おもえどうは』 五助も男ヤッパうっかりん話 なんのこた一ねえ月のもんじゃった……みんな顔見あわせち大笑い。

人間なのう天かる授かっち生まれた じゃき体うデージせにゃのう。月ん満つる頃い生まるる 月にゃ関係が深えイケウチんようなもんじゃ。ジャキ体ん部分にゃ月偏がガイト付いちよるがある。『ヤンドドウ幾つ知っちよる』『…………』 知らんのかフント 五助さんは腹立ち顔になったが 『コライーノ お前どまゝ頭いいき こりゃ悪かった今なポイスルド』 脹ら脛、肘、股、肩、肩甲骨。

モチヨイ捜しち見ろうか 肺、腹、腸、腎臓、肝臓、膨らむ、『や だれか嫁ごになるや』『フントすぐこれじゃ年寄りゃダマツョリヨ』 おみつが睨みつくるごつ 見たもんじゃき縮みあがった。『こりゃ悪かった 決まったら一番に知らしいや』『祝儀くるるんじゃな』 大声が出たき慌てた五助さん 『こりゃコンメー声じ言わんか』

『取り上げばあさんぬ 決めちょけや』『ふんともう気が早えなあ』『まゝ相手もねーになえ』『や お前ゃこん前 牛見が来たんじゃねえんか』『ありゃ違うで 薬屋さんじゃこと』『富山ん薬屋さんな もう来たんか』。

『フウセンヌがいと貰うち』『がいとぅ飲んだんじゃろう』『早めん用心ないが テンシヨムシヨ飲むなや』
医者にゃなかなかカカレレンキ 入れ葉い頼るけんど そやそれなりん生活ん知恵。薬屋さんが腰かけち 四方山話じアッチコッチん 情報も聞いち私語とん訳にんたつ。

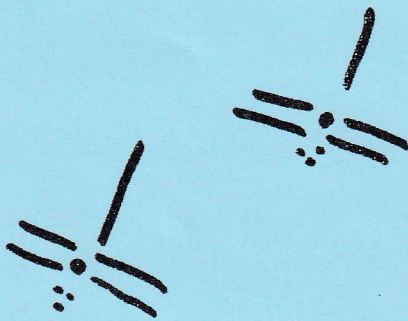
『こん前ご馳走になったき コブ少し お土産です』
あげちょきゃ貰う事もある これが人間の『つつろく人生になる』 施しちこす報いは生まるるもん 『あっこんしゃゆう人かる貰うごたる』 嫉妬心じ見るしがユウ居るがこりゃ見当違いち言うもん。

『おみつ 茶をくんなお 喉が乾いた』『こりゃ気がきかんじ』『いんにゃ あんまり別嬪が多いき 照れちの』
『へーそげん年でんあるめーこたんに』『なにや』 五助さんチット顔が赤うなった。若い娘たちとシャベッコルと 気分も若返るき今日は話も 弾んじょるごたる。おみつも そげな髭もじゃん五助う見ると いつまでん長生きしちもらいて一ち。そりゃーここにおる 若い娘たちも同じ思いでんあった。

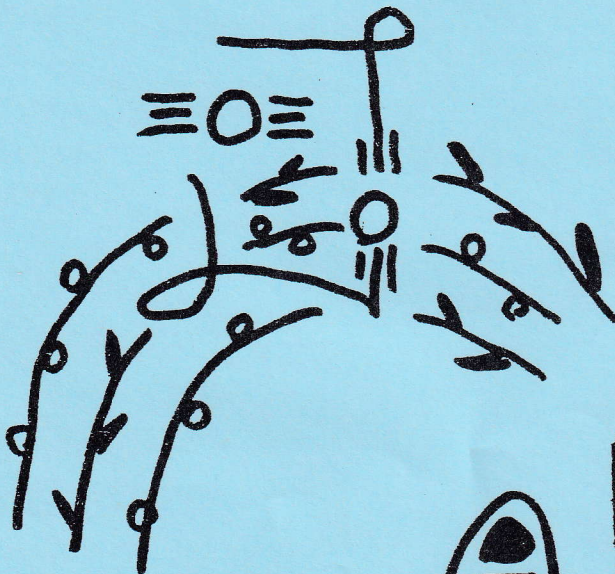
『お前どうは若えんじゃき 一日一字でん覚ゆるごつ気をつきいのう そうすりゃ一年に365字。一日一時間を無駄にすりゃ100歳までにゃ 36000時間失うこちなるんど』 こりゃ簡単なごたるが難しい けんど出来ん事でんねえ 問題はするかせんかん問題じゃき。

五助さんの話がぼちぼち 熱おびち来たき おみつが米う研ギデータ どうやら昼飯う一緒にちゅ サンダンジャロー。娘立ちん愛情はこげなふうに 美しい花になっち咲いち 行くんじゃろう。

有言



子侯公



世



恩

『七夕さまが近えき紙こってな』『そうじゃのう』朝早
う起くと畑んクロかる 里芋ん葉にタマच्छョル露を じ
っと揺らしち茶碗に集むる。『なしえ』『ありゃ知らんの
こん水じスツタ墨じ書くと いい字が出来ち願い事も叶うん
と』子どもん世界にゃ いつでん夢があった。

『ひとぎマキがあるで』誰かが言うとすぐ回りんしが
次々言うんか知ったしどうが 集まる。『娘はヒドキヒライ
行く時ゑ化粧しち行かにゃ』ち ゆうババさんかる言われた
もんじゃ。

石版を大事抱えち帰ちくる子 『やんな丸貫ったんじゃ
のう』『そうで 見しゅうな』『や 見てんいんか』『いい
で』石筆じ書いた字がゆう出来たき 赤色じ丸が二つ書い
ちった。『ふんどのう たいしたもんじゃ 消えんごつせ
んと』『うん』隠すと子供ゑびらびら 飛うじ帰った。

子供ん世界にゃいつでん どき一でん夢があっち そこら
そんげん物う使うち遊ぶ。自然の中じ知恵もち一ち行く。

泣きながら帰る子もおりゃ 喧嘩しち帰る子もおる。いつ
もこなさるるんな 決まच्चよるごたるが そりゃニクウジ
喧嘩するんじゃねえ オゴリン遊びでんある。今喧嘩しよっ
たに もう仲良しになच्चよる。『お前どう喧嘩しよったん
じゃねえ一か』『知らんで』大人があきるるごたる スラ
ん喧嘩もある。こりゅう『ドウクル』ち言う。

どうくんなや とわず言うな とまど こげなんな みな
たわいもねえ ことば遊びん口相撲でんある。



※ 『狸うだめ一た五助さん』

向こん村を出た時ゝもう、陽がで一ぶ西い傾みいちょつた。それでん慣れた道じゃき 五助さんらしゅ帰りながら『どこまじ明りいか』ち あれこれ考えながら峠う 昇っち来たら 案のじょう山道へーると すぐ真っ暗うなっちしもうた。馬は夜でん目がシルルき 手綱う短こうシャント握り やんがち峠に登りちいた。

峠に登りちいたなよかったが どげしたことか道が両方さね 別れちよること。『おかしいなゝ コゲンハダなかったに』 一本道しかネエはずが 五助さんなチョイト考えた。『どうやら狸い化かされたんかん知れん』 五助さんな落ちちいちそこに 座りこむと腰かるタバコ入りゅ出えち 一服つけた。

ち 思いよったら目の前い バサッチ黒いもんが落てた。『ハァ狸めみやげに化けち来たな』、ダマシきせるう振り上ぐると 叩きつけた。タマガッタ狸ゝ慌てまくっち 音うたつると逃げちしもうた。あたりがパッと明るうなっち すると今まじん別れ道ゝ 一本になっち村に続いちょつた。

静まり返った峠道ゝ 何事もなかったごつ時折 小鳥ん声だけが聞こえよつた。いっときすると叩かれち コロゲマワツタカ知れん狸ん足音 忍び足じ逃ぐる様子が 静かな森ん中じゆう聞こえた。『痛かったろうに狸めショワァネエカ』 五助さんな狸に聞こゆるごつ 『もう化かしたりスンナヤふんと』

五助さんな家に帰ったな それかるイットキシちかる。外じ子供が親かるオコラレたんか 戸が閉まच्चよるち言う。

五助さんの帰りを待ちよつたんじゃろう それだけ五助さんな みんなかる頼りにされちよつた。馬をマヤに入れながら五助さんな 『又悪いこつうシタンジャロウ 俺が断りゅ言うちやるき まあ上がち待つちよれ。五助さんな なしクルワレタカを聞ちよつた。友達と喧嘩しち腹がタツタきコジイタ。

相手は手向かいせんに 自分勝手にヒジイメニ合わせた。『後じ悪いち思うたケンド』『悪かったち思うたんじゃの』そこまじ聞いた五助さん 『そりゅ話したけんど』『クルワレタンジャノ』『ソリヤ親も悪い ちゃんと聞いちゃらにゃのう』でん本人な反省しちよるち ふりい五助さんも安心した。

『よし解ったど 親にゃゆう話しちやるき 友達こそ一番大事ど これかるも悪いち思うたら すぐ断り言う事じゃの 誰でも勘違いああるもんじゃ』二人あ顔見合わせちニコリ……。五助さんな今帰りん狸ん話しゅ』『へーえ化かしヤイコしたん』

『断りゅ言うなあ勇氣もいんど けんどそこが大事じゃ』『…………』『それじ今まで以上に仲良し 信頼も出来る』人間が生きち行くルールでんある。あん狸もモウセンジャロウ』五助さんなヒョイトあん狸う 思いで一ちこんだ合うたら 話しちやろうかと思うた。

『ご免な』 たったこん一言が出らんと 間違われちしまう人ん心ん考え方。言葉使いじどけなこちもなる 人間な難強い動物じゃが 気持ちに通じ合ゃそれものうなち 仲良し明りい社会になるんじが 口じ言うごたねえごたる。



★ 方言説明 デーブ…だいぶ。みいちょつた…向いてい
21P = た。じょう…思うように。へーると…入る
と。しもった…しまった。シルルキ…見えるから。シ
ャント…しっかりと。やんがち…やがて。ちいた…着
いた。ドケシタコトカ…どうしたことなのか。コゲン
ハダァ…こんなはずは。はずが…なのに。チョイト…
ほんの少し。ちいた…着いた。バサッ…物音。ダマシ
…急に。タマガッタ…吃驚した。よった…いた。ショ
ワネーカ…大丈夫なの。スンナヤ…してはいけない。
オコラレ…叱られて。

22P = マヤ…馬小屋。クルワレタカ…叱られたか。
ダッタキ…疲れたから。ヒジイメニ…ひどい目に。ケ
ンド…けれども。ソリャ…それは。ちゃらにゃ…あげ
なさい。でん…でも。へーえ…あきれて。ヤイコ…比
べて。こんだ…このつぎは。モウセンジャロウ…もう
しないだろう。ヒョイト…もしかして。たった…ほん
の。

※ 『貰った苺の味』



勲と美智子は仲んいい兄妹 田植えが進んじ田んぼ
にゃ蛙の鳴き声。川べりじゃイドラん花が咲きよる。
山苺が赤う熟れち食べ頃いなち 美智子があんまり
欲しがるもんじゃき勲が取りに 連れち行くこちなっ
た。大けな籠が恥じうかかにゃイガ よきいありゃ
いいけんどち心配にも なりよった。

いつも父親が連れち行ちくるるき 来た山に子供
だけし来るなゝ初めち。去年なあったけんど今年しゃ

どげーじゃろう。勲は捜しちよるけんどなかなか見つかりゃせん。やっと美智子が見つけた1つ 『お兄ちゃんあつた』 嬉しそうに握った手をあげち 見せた真っ赤な苺。『よかったのう 食べよ』『いいの』 お兄ちゃんな大きゅ顔いち 自分も心ん底かる 喜くうだ。そしち口に入れち嬉しそうな美智子ん顔。

そん一つがあったあたーどけしたんか イッコモねえじ慌てちしうた。折角連れち来ちタヘラク 言うつもりが何か嘘うゆうたごつ 勲は心う攻めよった。『一つしか』 美智子ん哀れそうな声に 『ひょいとすりゃ 場所う間違えたんかん知れん』 俄か造りん嘘じ誤魔化す 勲ん心ん中じ ヨコシマン根性が顔う見する。

『もうイヌルか』『カイルン』 美智子はちびっと寂しゅなった。そりゅ見るといちべえ ナサケノウなっち来る。籠いっばいは無理でん 目立つぐれえは欲しかったに。美智子ん喜ぶ顔う創造しちよつたに じゃきよきい悔しいやら 情けねえやらん勲じゃつた。

なしこげえねえんか 場所う間違えたんか 美智子にゃ 済まん気持ちち後悔しよる。そしち悲しそうに帰る美智子ん姿。家じ待つしどもに笑わるる。あんげこんげ思うと足どりも重うなった。『もういいで1でんあったこと』 妹に慰めらるるごたる 帰り道じゃつた。

『また来りゃいいこと こんだあるわな』 妹に言われち救わるるごたるき ほっと胸なでおろしちよつた。そん時じゃつた井路ん向こうかるん声 近所んおぼさんが手をあげち 『苺なかつたんな』『うん』『ほんな待ちなゝ』 流れん早え井路越しい さいで一ち『籠に移しよ』ち。

『危ねえ』 勲と美智子はタマガリました。『おばさん
大丈夫な』 そんな声じシャント踏みつけた足。『あゝタマ
ガツタ』 笑った顔じ苺は渡されち 籠ん中じ光るごたる
苺。二人は おばさんの優しい心い涙だぐうだ。

『あらまゝ 一つもなかったんかえ』『うん』 二人は
顔くのもえーと 嬉しゅうじ涙じ目の前が かすーじよつ
た。『昨日 だれかが来たんじゃな』 美智子は籠ん中ん
大けなぬ 手のひれえ乗せち 『おばさん おおきに』。

もし おばさんに貰わにゃ 家んしかる笑わるるところ
じゃった ち二人小声じ話した。でん家んしゃ笑うたりゃ
せんき 心配せんでんいいで。おばさんが 背中えそげえ
言うごたるちも思うた。こげな山ん中え子供んじょうじ
来るな 危ねえとも言わるるごたる そげな気持ちにも
なっちしもった。

二人にゃいろんな勉強も出来た。人間な多くん人たちん
世話じ生きちよる。そしち守られちよるき 自分じ出来る
こたゝしちあぐる事も 大切な仕組みとん思うた。あん時
おばさんに出会わにゃ 今頃まじウロウロしち 苺さがし
ちよるじゃろう。そしち結局ゝノウジ帰る そんな寂しい事
がまるじ嘘んごたる こちいなった今日ん出来事。

家でこん話しながら食べた苺ん味 人ん優しさが染みく
うだ美味しさ。勲の妹思い 美智子ん兄を信じる健気さ。
大人になってん今日ん思い出は きっと役立つ事になるじ
ゃろう。一粒ん苺ん命を貰ち生きる人間 ほんなどけな
お返しすりゃいいか 二人ん考えはいつかきっと 花を咲
かすごたる考えに なっち行くじゃろう。



『炭ん重さと人ん情け』

中学生になったばかりん背中にゃ ずしり重てえ炭俵を背板じ担ぐ哲ちゃんは 広島かる疎開しち農業する 家庭ん子供じゃつた。知らん土地でん生活にゃ 何を買うのも現金がいるもん。明日は学校に持ちちいく お金がいる。哲ちゃんなそげな時んために 日ころかる炭運びん加勢を学校かる帰るとしちよつた。

かばんめ上がり口置くと 背板に炭俵お積みました。かわいそうち思う気持ちゃ じつところえち『行ちくるか』『僕が行くち言うちやるき』 ふかした『トイモ』を口にはほぼると よいしょち担いだ哲ちゃん。重みがずしり肩にくいこむ。『しよわおねえか』 父の声に『いいよ』 元気よく坂道うくだりました。

『これが売れたら明日 学校に持ちちいかるる』 忘れたなんか 変な言い訳をしたことも あったけんど』ち思うと哲ちゃんは 楽しさと 『買ってくれるかな』ち思う不安もありました。道道そげなこつち考えちよる間に 県道まじもう来ちよつた。

『炭持ちち来たけんど』 哲ちゃんはそのじ売れたらすぐイナルル 重さかるやと背伸びでけた時じゃつた。おぼさんが勝手口かる出ちくると 『あら悪いなァ うちはまあよかったに そっじゃ折角来たきなえ 向こうんしに言うちあぐるわ』 哲ちゃんはガクンち 何か頭を打たれたごたる 真っ白になちしまいました。

『こんままもし売れんじゃつたら どげえしゅうか』 明日ん学校ん言い訳がまた 目の前じ回ちよるごたる。

足音がしたかち思うと おばさんがツージ帰っちくるなり『むげね一き買うち言よるき あん角ん家にゆきな』 笑顔のおばさんぬ見たら もう涙が流れおてちしもった。『あらま 泣きよんの可愛いそうに でんよかったことなえ』『ありかとう おばさん』

哲ちゃんなこんだは重とう感じんような 背板ん炭俵が肩叩きしちくるるごたる。言われた角ん家に行くと カベナシジ待ちちよつちくれた。『あんたな 親孝行息子ち 評判でハオカミナァエ』 うれし涙がまた頬をつたわる もう夕暮れじゃつた。買うちくれたき 明日の いや家族ん顔が次つぎに 笑顔じ出ては消えちよつた。

『あんたもう ヒモジイ頃じゃろう 晩ごはん食べんな』 可愛いそうにち思うたんか ババサンがそう言うとき 哲ちゃんはもう何とお礼言えばいいんか 嬉しさに飛び上がる気持ちになちしもった。『おおきに もう遅いき帰らんと 家んもんが心配するき』『そうな ほんなチョイト待ちよえ』 奥かる何か包んだもぬ一差し出えち 親孝行しゃき遠慮しよるんじゃろう。『……』 頑張りなえ苦勞しちよきまきと いい事があるきな』

『持ち帰ち皆んなじ食べな ちまた時どき買うき寄りな』 新聞紙に包んじホメソで クビッタ包みミヤゲは 哲ちゃんの親孝行と 健気に頑張つちよるご褒美じゃろう。頭が下がりすぎるぐれさげち 哲ちゃんは受け取ると カラになつた背板をヒョイと担いで薄くらい道を家に急いだ。

帰りが遅いので兄弟姉妹も ワカサレまじ出ち待ちちよつたら 足音が近うなる。



『あっ兄ちゃんがん足音』 末ん妹が先に聞きつけた そん足音はまさしく 哲ちゃんの嬉しそうな歩き方ん 足音。『兄ちゃん 兄ちゃん』 『おーい 今帰ったで 迎えに来ちくれたんか』 『お帰り』 皆はお兄ちゃんの側まじ 駆けよっち嬉しそうに はしやいじよつた。

『ほら おみやげもらったんで 食べよ』 『いいんにゃ家に帰っちかる あけような』 笑顔の歓声が周りん山にも響きよる。『おれ背板担ぐ』 次男が言うと哲ちゃんは嬉しくなっち 『じゃけんど暗えきいアブネエ』ち 渡しませんでした。

親たちも心配しち 姿見るまじゃ落ち着かんようじゃが 子供んハシヤグ声じ だいだいん事ゝ創造もついた。『ただいま 売れたで2俵とも』 『ご苦労さん ヒドカッタノウ』 『アンお婆さんは駄目じゃつたけんど 他んしに言うちくれち 2俵とも それにおみやげまじ』 『そうか よかったのう』 『それにメシまじ食ベンナち 言われたけんどナンポナンデン』 『ジャキおみやげくれたんじゃのう』 『うん嬉しかった もう……』 『そうか 頑張ったのう……』 親も子も 嬉しさに涙が頬を伝わる。

みやげを開いたら なんと中からは ヒヤキ、煎餅、飴玉なんかん 人ん情けがぎっしり詰まっち 親子ん苦労が人ん心に伝わる世間の ご褒美んごたる包みミヤゲでんあった。『おばあさんに会ったら ちゃんとお礼言わやのう』 『うんこんだ春にゃ タケノコ持って行っちゃろう』 『それがいいな』 奥からおふくろが 答えちくれた。

炭は重かったけんど それよりゃ尚 人ん情けん重い喜びが 裸電球ん下じ食ぶる夕げん膳にも 広がっちゃつた。

子供ん世界…方言説明

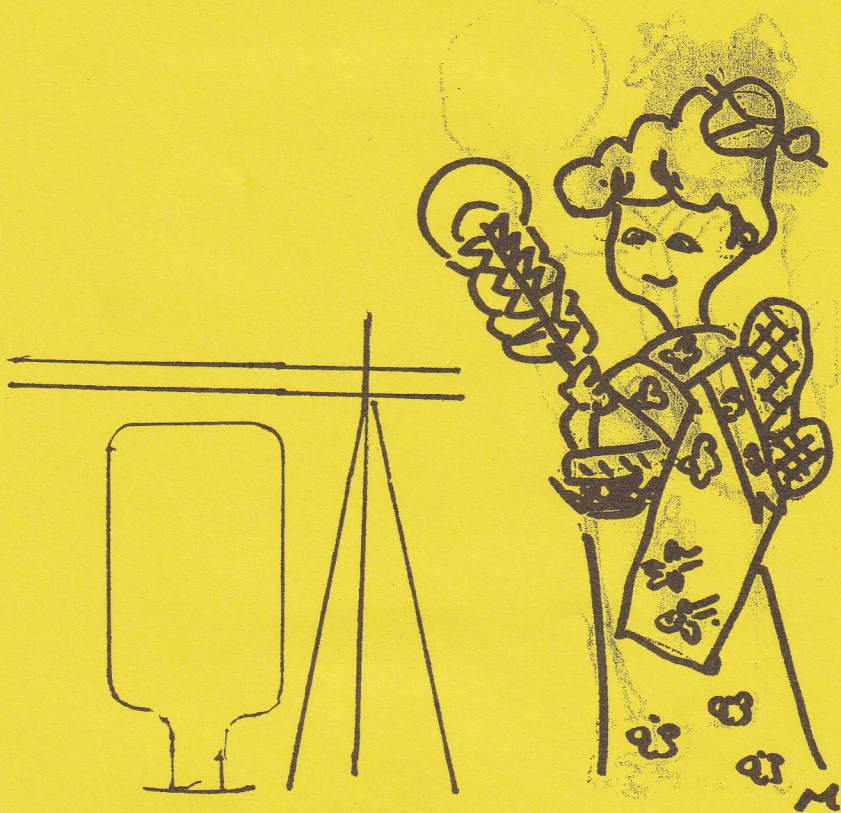
26 P…ずしり…肩に重くのしかかる。背板…荷物を運ぶ時に使う背かるい式農具。疎開…戦時中危険を逃れて転居。じゃつた…でした。そげな…そんな時の。しとところえち…静かに我慢して。行ちくる…行ってきます。※ 行って来るのように 行き来する様。ちるき…言っているの。トイモ…甘藷芋。しよわねえか…大丈夫ですか。いかるる…いけます。けんど…けれど。そげなこつゝ…そんなことを。そこじ…そこで。イナルル…帰られる。うち…家。あぐるわ…あげます。どげしゅうかごたる…どうしようかと苦になる。ごたる…そのようです。

…

27 P…ツージ…飛んで。むげねえき…可愛いそうで。しもった…失敗した。でん…でも。よかったことなえ…よかったですね。こんだわ…今度は。カベナシ…軒下。ハオカミナァ…頑張りなさい。ヒモジイ…空腹。だっちしもった…疲れてしまう。おおきに…ありかとう。チヨイト…少し。少しの間。待ちよえ…待ちなさいよ。しよるんじゃろう…しているのでしょうか。ホメソ…細い丈夫な糸。クビッタ…縛った。カラ…空きになった。ヒョイト…気軽に。ワカサレ…別れ道。

28 P…くれたんか…くださったの。ほら…はい。いいんにゃ…いや。じゃけんど…てすけれど。アブネー…危険。ヒドカッタノウ…ご苦労さま。ナンボナンデン…いくら何でも。ジャキ…ですから。ヒヤキ…小麦粉を餅状にして焼いたもの。行ちゃろう…ゆきましよう。裸電球…戦時後まであったガス入りで 透明普通の家庭では1個か2個しか つけていなかった。せいぜい今の60ワット位の照明。

ふるさとの味



漬け物が食い頃いなたき持ち来たで 隣近所んしが得意顔じ前垂れん下かる出す。『りゃー早えなァ もう浸かったんな うまかろうな』『どげかな 腹立てまぎりい 浸けたき 辛えかん知れんで』 つけ込みん時ん気分じ味も違うち言う。

話し言葉にゃこげんふうに 余分につけたり 上品に聞こえたりもする。仲良し同志ならそれもいいが ちよいとキンピラなら 言葉使いにも気をつけにゃ どぐでんねえこち聞こえたり 聞き取ったりもする

『嫁にゃ食わせんがいいで』 秋ん茄子は歯ざわりがいいし味も引き立つき 旨いものじゃが ここまじ来ると毒気もさす。『じゃろうか』 思うち言うたんが 仲間割れん元作りでんなりゃ それこそおおごと。そげんこたァねえで アクがあるき 健康上は悪いけんど おいしいもんな皆んなじ食べてえもの。

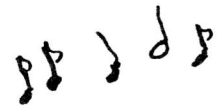
寒いあさま仕事ん畑に『甘酒飲みよ』ち 声が聞こえたき腰うのした。隣んばばさんが 気を効かせち呼んだんじやろうが 若い嫁に来たばかりんしにゃ こげか声がかかるな嬉しいもん。ふっと里ん母親が目に浮かぶ』『ちゃァいいんな』 冷たく冷え切った手先 皺の増えたこん人も来た頃んにゃ きっと誰からか声がかかち 同じ思いをしたんじゃろう。

腰かけたら途端に粉雪が まいだした。人ん巡り合わせたァ不思議なもん。いつか自分もこげなふうに 誰かにしてあげにゃち温かな茶碗を 眺めち心に決むる。

農村じゃ食生活も地味でんある。が土かる生まれたばかり
ん 新鮮そのもんじゃき 栄養価も馴染み深え 顔見知りん
食いもん。そしち足らん分…海産物 魚 こげなんが仲間
入りゃもう 鬼に金棒ちゅこち一なる。じゃき常日頃ん生活
にゃ 知恵が働きうまい具合に 食い合わせるごつなっちょ
る。

今回もそげな『故郷ん味』う いくつか顔並べたき よけ
りゃ試食もいいんじゃねえ。素朴じ親譲りん味 暖かな故郷
ん香り 匂い 口当たり 全身に染み渡るごたる味。

★ 『いりこみそ』



農家ん味にゃ欠かせんに 『いりこ』がある。だしが取れ
ち色合いも香りも絶品。まゝ嫌いなしもあるき そんな時ゝご
免な。麦飯に漬けもん 味噌汁がありゃ 一回ん食事
にゃ すぐ間に合うぐれ 味噌たゝ重宝なもん。そんな味噌にチョコ
ット 手を加えた『いりこみそ』。

いりこをサットあぶっち 刻むと風味のいい香り。味噌に
入れち適当に混ぜると 出来上がる材料。油を引いた鍋に入
れ うっすら焦げるくらいが 絶品の完成になる。ほかほか
ん飯に乗せち チット撫でまわすごつ表面に塗る そんな香
りがもう 口が先にツージきそう。

舌に感触が伝おちくると 別々に考えるのたゝ 又違う味
が口いっぱいひろがる。好みじネギンミジンギリも いい
が まず『いりこみそ』だけん 食感が食欲をカキタツル。
『焦げ』が多いと又格別んごたる。が炊飯器ち言うもんじゃ
そりゃ無理かん知れん。

一口ほほばっち目をツビータ。ちよいと静まる『どげえかよい』ひょいと自分に帰ったごつ目をアクルト思わん『こりゃうめー』ちニコット笑ろうた。そんくれーうめえもんじゃゅきまゝ試し作っち食うちみて。そん味が解りゃもう職人になれるるきな。

『や職人ち免許でんいるんか』本気に受け取る素朴ん人柄にゃ憎めん優しい気持ちが全身に漲つちよつた。それでん好かんしもあるじゃろうき無理にゃ言わんけんどもゝ食べちみりよそりゃホケーおさいはいらんのじゃねえ。皆が顔見合わせち笑ろうた。

好みによっち季節ん香りこれもいいかん知れん。それぞれに合う料理方法じ『いりこみそ』作りに挑戦しちみちょくれ。香り、歯ざわり、焦げた匂いそげなんがありゃもう『いりこみそ』ん正体が出来上がったこち一なるんで。

暮らしが貧しゅのうでん忙しい時にゃ手っ取り早う準備が出来る生活ん中かゝる編みで一た先人の知恵。とやっぱ貧しい時じゃつちあるそげな時ん節約ちゅう心ん知恵が作りで一た食生活ん秘法かん知れん。家庭が家族が凌ぐ手段の中で美味しく食えるるなゝ何よりん幸せち思うがどっじゃろうか。

※ 方言説明 にゃ…には。あるき…ありますから。ありゃ…あれは。合うぐれー…合うような。たゝ…とは。チョコット…ほんの少し。あふっち…あぶって。うっすら…うすく。ツージきそう…飛んで来るよう。だけん…だけの。ごたる…ようです。もんじゃ…ものです。ほほばっち…頬いっぱい。ちよいと…ほんの少し。

どげーかよい…どんなあじですか。ひよいと…もしかして。ごつ…ように。こりゃうめー…これは美味しい。そんくれー…そのくらいは。好かんしも…嫌いな人も。あるじゃろうき…あるでしょあから。けんどもまゝ…それてしてもまゝ。みりよ…見てください。

そりゃーほけー…それは別に。おさい…おかず、副食。いらんのじゃねえ…いらぬのでは。みちよくれ…見てください。そげなんが…そんなものが。貧しゅうてん…貧乏していても。編みで一た…考え出した。やっぱ…やはり。時じゃつち…時でもあって。そげな…そんな。ちゅう…ともいう。食べるるなあ…食べられるのは。どうじゃろう…どうでしょうか。

★ 『一合ぞうすい、二合がゆ』

米は節約せんとイノチキが忙しい。ゆう百姓んしが言う話じゃが 昔かる百姓は苦勞しち頑張る。国んために戦争中はいつも 決まっち食料増産に 追い立てられよった。江戸時代にゃ土農工商とか 品はいいけんど結局は 働くだけ働きそん報いは いつも恵まれん立場にあった。

考えようじゃ自由に働く時間が 自分じ調整出来るが 労働ん面じゃ厳しい立場。環境がおおだっぱな だけに自然儉約や節約が 身に染みついちしもうた。じゃが素朴じ優しいっじ情愛ん深さ そげな生き方が国ん食料を 長い間支えちょつたんか知れん。

いろいろあってん我慢強いのん 土と取り組む日々ん絆が そげな人間哲学う身に つけたんかん知れん。

一合ありゃ一飯が足らん時でん 雑炊にすりゃ3人分なあるき助かる。そこらじゅうにある野菜 残りもんの味噌汁もサデクウジ 茶碗3杯分の水が知っちよる。ソウコシヨリヤ文句か グツグツたきりで一た。味噌う水じといちイッコム。モウ味見ゃせんでん腕が ちゃんと覚えちよる。

米ん食い延ばしもあったが 残り物んの整理にもなるし寝る前なんかもう消化も ハエーキお誂え向きん食いもん。戦争中か戦後まじゃ供出も厳しい 食うぐれはあるち思うてん 天気も左右する 農薬がそげ一ある訳でんねえ。第一そげな銭もねえもんじゃき 畦草かる山ん中ん下草まじ サゼクージン米づくり。苦労したけんどのう。

米ん出来が悪かったら供出米が足らん 聞いたら代わりでんいい…トイモでんいいんと。『ほんな大野郡まじ買いに行っちくう』 それもありゃこす ね一しもあった。ボヤボヤしよっちトウトウ強権発動 連れちいかれちしもうた。自分どうは米選機下ん コボクレ米う食うちよつちで。

じゃき米う辛抱せにゃイカレンのじゃった。1合ん米が3人じ食える。そり一ニンニク、ニラどま入れちおみり けっくしゃウメエで。ありゃ小麦粉んダンゴどま 仲間え入るりゃそりゃもう味もゆうなる。生活ん知恵たゝ節約儉約辛抱ん 品のいい代名詞でんあるわな。

もひとつえ じゃなゝ『2合がゆ』ちゅうがある。お粥は雑炊よりゃちっとヨキー 米がいるけど米ん食い延ばしにゃ ゆう役立ちよったし簡単でんあった。真っ白い米ん化粧した 湯気に仄かに浮かぶ『お粥』は 病人食だけじゃねえ上品な食事でんあった。米う作っち腹ひとつ 食えんなんか どう思うてんおかしいなえ。



2合ん米に普通ん飯よりゃ 水多いめに入れち柔らしゆ炊くと 水分の残った『お粥』ん出来上がり。1合雑炊に2合粥ち昔かる 米ん食い延ばしん手段でんあった。お粥が口当たりがいい…強がり言うてん芯は米タポイ。弱音は見せとうもねえ 意地も見せよったもんじゃ。

お粥にゃ梅干がアイコデショ。しょくが進まんしにゃ起け立てるる 妙葉んごたる食い物だけに米たばいと優しい心くばりん食べ物でんある。2合ん米じ3人が一遍食い凌ぐる。麦飯よりゃ時にゃ 米飯《お粥でんいいき》伊達姿おみせて一若もんも おったそな。

※ 方言説明 33P…イノチキ…生活。ゆう…よく。たてられよっち…せきたてられて。ようじゃ…ほうでは。おおだっぱな…あらましで雑。ついちしもうた…ついてしまった。じゃが…ですが。しゅうじ…しくて。そげな…そんな。ちょつたんか…えていたのです。のん…のも。つけたんかん…つけたのかも。

34P ありゃー…あれは。すりゃ…すれば。そこらじゅうに…そのあたりいちめん。サデクージ…全部入れて。ソウコシヨリゃ…そうしているまに。イッコム…入れてしまう。ちよる…ている。いいんと…よいのです。ありゃこす…あればこそ。ねえしも…ないひとも。ぼやぼやしち…のんきにして。コボクレ…質の悪い砕け米。じゃき…ですから。イカレンのじゃつた…どうにもならなかった。おみり…そうしてみては。けっくしゃ…結構に。じゃな…ですね。ちゅうんがある…そう言うのもあります。ヨキー…多目に。じゃねえーではないです。なんか…など。

よりゃ…よりは。多いめに…多くして。かる…から。延ばしん…延ばしの。でん…でも。タボイ…大事に、保存。見せよった…見せていた。アイコデショ…同じよ。起きたてる…起きられるようになる。ごたる…ようです。たばいと…大事にするから。くばりん…配るので。伊達姿みせち…品のいい所を見せて。そうな…そのようです。

とにかく厳しい日々でんあったき 代用食ゝ生活ん知恵でんあった。そげな生活に慣れるるか 身に染みつけきるか そんなチョコットん差が 納得も楽しゅうもしち 乗り越えた農家百姓でんある。日銭が入らんとなりゃ もう1月でん続くもんじゃき あるもんじイノチキ。どんくれ知恵が出るんそこが 腕ん見せ所でんあった。

そうそう お粥じゃがチット塩うヒトツマミ。梅干しもゆう似合うんで。そりい沢庵がけっくしゃいい。お粥ち言うと『行平…ユキヒラ』がいい味いなる。行平ち言うしが作ったき そんなの名前をそんなま使う。ふんと小にくらしいなえ。風邪どま引いて寝こむと こん行平じ炊えたぬ そんなま枕許ち持ちちくると ふあっと湯気ん中かる匂いが。米も使いようじこげな 按配はねえち喜くうじくれた。

★ 方言説明…あったき…あつたので。そげな…そんな。なれるるか…なれようか。染みつけきるか…体に染みられるか。そんなチョコット…ほんの少しの。楽しゅうもしち…楽しくもして。なりゃ…なれば。じゃき…ですから。あるもんじ…あるもので。どんくれ…どのくらい。そこが…その時が。そりい…それに…けっくしゃ…結構。そんなの…その人の。ふんと…ほんとに。こげな…このような。喜くうじくれた…喜んでくれた。

人間が一日に食うもんな《3食》 雑炊なら1合ありゃ凌げるし お粥なら2合じ死にゃせん。百姓は米う作っちよつてん辛抱しち 米う売っちイノチキゅする。そげな宿命でん あったき 慣れもありゃ苦にもならんじやつた。ち言うか諦めが身に染みちいちよつた。

続く3合飯、4合火焼きに 5合うどん。ちゆうこちーなるが こん続きゃ『続編12号』にするな。又楽しみしちよつちなあ。サカシユシチョンナァエ。逢う日ゅ楽しみしちよるきな 風邪うひかんごつ 生水飲みなんなえ 腹痛が苦になるき……………。

★ 亥の子餅



『こんやの亥の子 祝わわんものわ 鬼生め蛇うめ 角はえた子うめ エートナエトナ もひとつおまけに 祝いましょう』 餓鬼大将どもがコンメー子供と 藁ぼて槌じ地面ぬ叩きながら 家かる家を回っち 亥の子餅う貰う素朴な行事ん1つ。中にゃ子守ゅしながらん子もおる。

今年新しゅ出来たモチ米じ チイタ餅う皆んなにくるる 子供にとっちゃ楽しい晩でんある。新しい取り入れに感謝する意味やら 土地を叩いて害虫やらモグラを 追い払う害虫駆除ん役目。地主が貧しい家ん子にも 平等につき餅を食べさせたい 思いやりん気持ちかるん行事。何かも伝えられちよる。餡の入った餅、しいら餅、塩餡《砂糖が使ってない》の餅、けんど準備した餅には ちゃんとソコンシン気持ちが入っちょんな間違いねえんじやろう。

オトシに入れた餅が やんがち家に 帰りつくとヤウチも心待ちしちよる。刹那。

『ヤンナそげえ貰うたんか』 年寄りんしが目を細うしち
オトシかる 次々つまみだすぬう見よる。子供たちが回った
貰うた ただそれだけん事が 皆んなん心うほのぼのとし
ちくるる。『こりゃオオゲナシジャノウ』『ソランじいさん
かたんじゃ』『あっこなメートシ大っきいのや』 家じゅう
に笑い声が響きよった。

『お前も人並み貰うたんか』『そっで』 土んちいた手を
シカト洗いもせんじ 行ったんか餅に泥がちいちょる。それ
が又ウメーゴタル。『アシタン朝ゾウニじゃの』 オカチャ
ンが茶碗メゴう脇い押しやると ズリ上がっち座った。『う
ちなゝ品が悪いこたなかった』『そげんこたゝねーで』 手
褒めした姉嬢が自慢げに言うと 『そうか』 親父も嬉しそ
うじゃつた。こん娘もそろそろ年頃。

集落じゃ石うカズラじぶらさげち 土にドスンドスンち
つく。楕円形ん珍しいなゝ もう昔かるあるき くわしい事
ゝ解らんち言うが 見ちよると神秘的ん思いもする。こげな
んじドスンドスンち叩かるりゃ 虫たちもさぞやタマガッチ
ニグルじゃろう。ちった寒うなってん子供ゝ風ん子。

皆んなが思いあうせめて子供にゃ 貧富ん差まじゃさせと
もねえ。子守する子にゃ背中ん子にも 『お前かたんババさ
んなどげーか ちったいいんか 餅が好きじゃつたき こり
う食べさせちくりい』 竹ん皮に包んじ子供に持たする。心
が豊かなりゃこす出来く思いやり。

『もうこんや終わりじゃの 気をつけち帰れや』 大将が
一声言うと『あーい』『さいなら』 草履ん音うバタバタ
夜道ん中をメイメイが帰る。見送る大将も心配ねえち 思う
たんか一つ口入ると 自分も引き上げち行く 月が美しい
亥の子ん晩じゃつた。

★ 方言説明… 37P 死にゃせん…死なないでしょう。

じゃった…でした。ちゅうこちなる…こんな話になる。するな…します。サカシャシチナァエ…元気にしていてね。飲みなんなえ…飲みなさんな。こんや…今晚。エートンエトナ…祝いと祝いと。藁ぼて…長さ50センチ、太さ径10センチくらいの藁を縄で巻いた地面を叩く 道具で子供が亥の子行事に使うもの。ちいた…ついた。くるる…くれる。とっちゃ…してみると。しいら餅…餡が入っていない餅。けんど…けれど。ちゃんとそこんしん…その家の人の気持ち。オトシ…ポケット。やんがち…やがて。ヤウチ…家族一つの家の人たち。

38P…ヤンナ…お前は。こりゃ…これは。オオゲナシジャノウ…おおきなものですね。そらん…上の方にある家の呼び名。あっこな…あすこのは。メートシ…毎年。たんか…たのか。そうで…そうよ。ちいちょる…ついている。オカチャン…母親。メゴ…茶碗などを入れる籠の入れ物。ズリアがっち…ずりあがると。そげんこち…ねえで…そんな事はないですよ。そうか…なのか。カズラ…弦性の植物。こげなんじ…こんなもので。ちつく…地面を叩く。タマガッチ…吃驚して。じゃろう…でしょう。ちった…少しは。まじゃさせとうねえ…そんなにはさせたくない。ババさん…祖母。こりゅ…これを。させちくりい…させなさい。あーい…はい。さいなら…さよなら。じやった…でした。

★ 今市地区ん亥の子唄 大黒さんと言う人は 1で俵うふんばって 2でニッコリ笑うた
3で杯さしおうて 4で世の中よいように 5ついつでもご轟辰に 6つ無病息災で 7つ何事ないように 8つ屋敷を買い集め 9つここに留まりて 10でとうとう納まった。ドッサリ。

こげなふうに地区によっち 亥の子ん唄も違うが これも江戸期に小藩分立ん名残り。もともと今市ゃ天領、岡藩なんか支配しちよつたき 上品な唄ん文句になっちよる。文化が交流すると美しい言葉 そり一ついち味も伝わる。亥の子餅にもそげな上品な味もあつたごたる。

晒餡を使う 漉し餡を使う 潰し餡にする 風格も違うち そん土地柄 人情が込められち 餅一つにしてん心ん味が伝わるき不思議でんある。

亥の子は旧暦ん10月ん亥の日 年によっちゃ3回の時もあつた。始めは百姓しん亥の子 2回目は地主ん亥の子 そしち3回目は商人の亥の子 そげな言い伝えもあつたが これも所 時によっち違うごたる。やっぱ百姓が主役者じゃき 農家が一番じゃつたんじゃろう。

大元ヵ田の神が取り入れが済んだ 家に帰ちくるち言う意味じゃき 収穫祭りになる。餅をついち近所ん 世話になつたしたちに配る。おすそ分けする意味。地主が貧しい百姓にも 又貧しい生活する家ん 子供たちにも平等に餅う食べさせる そげな情愛がこめられちよる。

藁ぼて☐亥の子槌ヵ すんだら果物ん木の枝にかくる。木に害虫がつかんごつん意味。そげなんがねえしゃ屋根ん上になげあぐる。虫よけ病気災難よけ 皆んな元気じ無病息災じ暮らしてヵ気持ちが無言の 教え習慣になっち 子供もそりゅうもう無意識んうち 覚えちいつんなかめ一かする。

亥は干支でん最後ん役目じゃが 取り入れん済んだ百姓もえーと『荷がおれた』ち ダツタ体う入湯にでん 行くんじゃろう。終わりよけりゃ全てよし……今年も豊年か満作か。

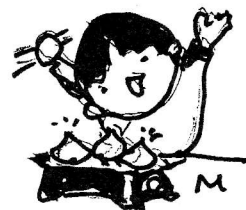
★ 餅つきん場面…もち米を洗い水に2日ほずカス。セイロにサナを敷き カセタもち米を入れち大釜で沸かした湯で蒸す。湯気が噴き出ることなりゃ 臼に移しち杵じつく。これが餅つきん順序。つき上がった餅は熱いうちー こんもうチギッチ小餅にマルムル。えーと出来た所じ神仏様^ま供えち 味見とくる。頬ばった餅 笑顔がくずれた うまかった……

こん頃^ま亥の子も変わった 餅ん代わり銭が渡さると。子供ん大将各が受取り回った子供に 大きい順に段差はあるが分けるこちーなるが こげなシキタリ習慣も 伝わる子供ん世界じゃき いろいろ意見もあるけんど それなりん素朴な伝承は 夢とロマンもあるごたる。

一頃は地区によっちゃ 菓子や蜜柑の時代もあったが 経済生活が向上すると 世相に習った餅の代用が文明を 反映もする子供ん世界でんある。底流に心通う味は食文化から 思想文化に代わり そん片鱗に子供が夢う 大事にしちよるんも ゆう解るごたる。

★ 方言説明 こげなふう…こんなふう。小藩分立…江戸期に小さな藩に分けられた。ちょつた…なっていた。でんある…でもある。ごたる…そのよう。やっぱ…やはり。くるち…来るから。ごつん…ごとん。荷がおれた…安心した。ダツタ…疲れた。カセタ…湿潤して軟くなる。チギッテ…小さくして。シキタリ…大きな子供が多く貰い小さい子供は少ないが毎年順に成長するので やがて自分も多く貰うことになる。しちよるんも…しているのも。セイロ…餅つきに使う餅米を蒸す時につかう木製の道具。⇒最近は金属性になった。

亥の子餅の味は心に染みつくような幼い頃の 思い出の味かもしれない。



故郷ん味 『ジリビヤキ』

小麦粉に適量ん塩う加えち チットズツ水う入れち練る。ちよいと柔らけえ ドロリとしたんが 鍋に親しみ安いき 油じ鍋そこう 拭いち流しこみ カイジャクシン尻じ丸う 撫でる。保存食でんあり『小昼』にも 人気ゆうじ手っとり 早えんがとりえ。裏返しにすりゃもう 独特ん匂いが鼻もつ 楽しませちもくるる。

焼きあがった時 刻んだ黒砂糖をバラリ それがやんがち 解けち 黒い縞模様が浮かびあがる。もう出来たもんじゃき 鍋かる あげよせん適当ん大きさに サクッと切ると一丁あ がり。タンサンぬちっと入れちよきゃ 黄色ん仕上がり 色 ン白いんがよけりゃ 入れんでんいいが ふっくら膨らむな ぁなえ……まぁ好みじゃけんど。

ジリー…湿ってぬるぬるする状態 ビヤキ…火じ焼く。ち まぁこげな思いかる縮まった方言。牛馬う使う男しがチョイ ト 昼寝する間に女ごしが クドン傍じ『ジリヒヤキ』 焼 く風情どま貧しゅうでん 心豊かな愛情がこめられちよる。『ぼちぼちかかろうか』…仕事はじめようか…『小昼食うち よきゃいいに』『そうか』 無造作に口に入るる そんな手先 かる家族ん 優しさも伝わるごたる。

米は年貢じゃき代用ん物う食う 知恵が生活上手にもなり 時にゃ 珍味にも広がる。好みじ季節薬味が入りゃ 格別ん 味にも早変わりするもん。春ん木の芽 ニラ ニンジンの葉 セリ ユズん皮 何かが入ると香りや味 それに彩りもあ っち作るも食ぶるも楽しい。

節約儉約そげな思いかる 湧き出た食べかた 作りかたは人の 優しい気持ちも抱きくうじ。

夏ん祭りにゃ蒸した餅が人気もん。昔かる酒餅ゃ祭りにゃ付き物でんあった。『タンサン餅』ん黄色ん平ら餅くらべ『さけもち』ゃ色白じふっくら 膨れた女肌ん餅じ香りもほんのり酒ん香り匂いが漂う。祭りじゃゆう食紅じ丸やら柄やら書いた 彩りも目を楽しませちくれた。

元になる酒麴は前に作った時 種とりしち乾燥しちよく。そりゅ砕いち小麦粉に混ぜち 耳たぶぐれ一んダンゴを作ち 餅ん元が出来る。やや小型でん麴が効き始むると 大きゅなち見事な餅になる。ふっくら出来た餅おセイロじ 蒸すと匂いが漂うごつなり ちょこっとなかめ『酒餅』がセイロかる取り出さるる。

ただそれだけん事じゃが 元麴を取っちょかんと難しい。乾燥することに気をつけんと 腐らかす事にもなって慌てち貫いに行くと笑わるる羽目にもなる。そんなかわり炊いた時残りんダンゴお 乾かしち保存すりゃもう オンの字。日頃ん考え方作り出す腕ん相違か。これが習い慣れん始まり。

『貰ろうた元じ炊いたき食べて』 隣ん若嫁ごが前だれに隠した 手塩皿に乗せた酒餅。隣んばばさんが笑顔じ 手を差し出すと受け取った。そんな時ん仄かん香りじもう 『ゆう出来たなァ お上手』ち 褒めよる。ちった上手もあつたがはじめちいしちゃ ゆう出来ちよつた。

こげーしち覚え自信に近づく 隣近所こす遠い親戚より大事せにゃちこちなる。『うめーで』 目を細めち旨そうに食ぶる こんしも嫁に来た頃ァ こげんふうに世話になり 覚えたんじゃろう。ふんともう。

ふるさとの味 『おはぎ』

元々は萩の餅んことじ『おはぎ』は 女房んことば。餅米と粳米う半々に混ぜち炊きあげ 熱いうちにザット潰しちコンメー俵状に丸め 小豆餡やキナ粉 擦り胡麻 なんかじ包みくうだ菓子ん一つじゃつた。彼岸に作っち仏前に供えち 家族も共に頂いたもん。

農家んしが餅米う植えてん 売る事が大事な収入でんあり言わば 贅沢品でんあつたき ご馳走ん一つになつちよつた。生活が変わると作る者が食えん そげな思いもあつち 粳米利用んもんが出来た。粘りが薄いき 地主さんにサイデェタところ 喜んじくれたが 気の毒に思うと餅米じ作った『おはぎ』う届けちくれた。

萩ん花がこぼるるような秋じやつた 『これがおはぎか』小作人はとてん 喜ぶと春先に残り少ねえ 粳米じ又作っち恥ずかしそうに 地主に差しで一た。『ぼたんの咲く頃じゃき ぼた餅じゃな』 何げのう話しため聞いた 百姓しが皆『ぼたんの花ん頃じゃき ぼたもち』ち 言い出えた。

それを聞いた地主はこう話した。もち米が入ち炊いた後『レンジ』じついち 餅んごつしち餡ぬつけた これが『ぼたもち』じゃつたち言う。ほんな『おはぎ』は ち聞くと粘りが少ねえき粳米なら ついてん粘りが少ねえき これが『おはぎ』じゃなかるうか。ち こちなつた。

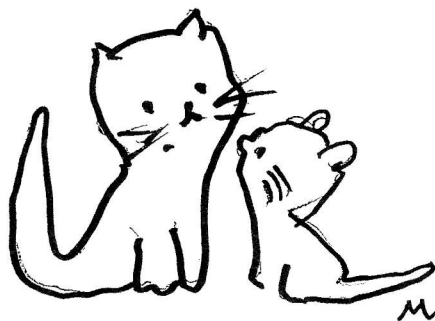
どっちしてん あんまり変わらんけど 炊いてついたもんが『ぼた餅』 に間違いなかるうごたる。けど本当かち言わると これも返事困るこちなるき ついたら『ぼた餅』 つかにゃ『おはぎ』なら まあいいんじゃねえ。ぼたんの春が『ぼたもち』 萩ん秋が『おはぎ』 これもなえ。

方言説明

4 2 P チットズツ…少しずつ。ちょいと…少し、あのもし。したんか…したのですか。カイジャクシ…おたま。小昼…小休止。すりゃもう…すればもう。やんがち…やがて。あげよせん…あげる暇がない。入れちょきゃ…入れておけば。チョイト…ほんの少し、寸暇。クドん…竈の。ちよきゃいい…しておげばよい。そうか…そうですか。年貢じゃき…昔の税金かわりですから。

4 3 P タンサン餅…タンサンを入れて蒸した餅。ゆう…よく。セイロ…蒸し器。ちょこっとんなかめ…ほんの少しの間に。つけんと…つけないと。すりゃもう…しておげば。オン…OK印。食べて…味見して。手塩皿…小さいお皿。こげーしち…こんなふうにして。うめーで…おいしいですよ。こんしも…この人も。こげんふうに…このように。ふんともう…本当にもう。

4 4 P ちょつた…なっていた。そげな…そんな。サイデータ…差し出した。とてん…とても。レンギ…すりこぎ。じゃったら…でしたら。ほんな…それならば。どっちしてん…どちらになっても。けんど…けれども。



吾助街道
おのたけり

山

山



お陣屋、宿場町、が1つの町《合併前の》に 2つもある
なァ珍しいんじゃねえ。野津原地区にゃ それがあるもんじ
ゃき こん頃ァちよいと評判になっちよる。それが肥後街道
ん中にあっち 2つん藩が隣同志しゃつた そげな事もまた
曰く因縁の間柄。お互いに仲良しじゃつたき こげんことも
出来たんしゃろうなァ。七瀬馬子唄かの一節……

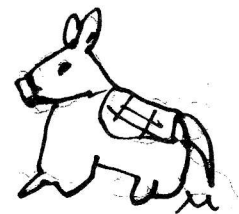
アオよ 勇めよ宿場は そこじゃ あれが街道ん石だたみ
ハァ 七瀬のせせらぎ サラサラ サラサラ
ホイ ホイ ホイ

馬子ん五助さんな 今日も竹田え荷物運んじ 温見越えう
するけんど 人気者じゃき 途中で頼まれたり 声がかか
ると そこじ話が弾む。

『なんや そげんことな』 得意ん方言が飛び出すと す
ぐ回りに人が集まる。『ちよいと 今日ではセワシイキ また
こん次い』 早う行かになゃ帰るか遅くなりゃ 娘が心配する
。

夢とロマンの故郷にゃ こげなふうに 人情が交差しち
人人ん優しい心ん花が あっちこっちい 咲いちよる。かつ
ての『府内ん小京都』 そげな優美人情愛が 受け継がれた
んじゃろう きっと。これからは 大分ん奥座敷いなっち
多くん人たちが 訪れ楽しい一時う 過ごすんじゃあるめえ
か 大分川ダムん槌音が こだまする故郷 清水ん湧く横に
今年も『白ユリン花』いじらしゅう咲いちよつた。

人の暮らしん中に囁く 自然のいとなみん
声は 生活ん中に生まれた 心ん唄でんある
ようじゃ。じゃき生きらるるち 思うが。



五助街道物語りから 『赤坂…伊塚上り坂』

馬にシャンと餌を食わせた五助さん 旅にツレノウタ客と二人じ 影道う歩きはじむるコチした。熊本かるコン坂道うクダリヤモウ 一の瀬う渡っちデーラ道 野津原ん宿場町い着くこちなるが 五助さんとん旅おソソ 反対ん肥後上りいなる。『しゃんとしちよらんと ヒジイ坂で』 荒肝う取っちょかにゃち こんくれ言うとニタツ笑うた。

赤坂石だたみじゃが 川は七つん瀬渡りするき『七瀬川』ち呼ぶ。猫柳う根元かる切っち 炭俵ん底に巻きくうじ炭う入るりゃ コボクレでんコボレンじ済む。朝早うかる切るのん今日は 窯出しするんじゃろう。旅人お五助さんに言われると 『じゃろうな ケンド身ゴノミジャキ』 笑い声じゴマカシタノン 自信なチッタあるんじゃろう。

一間幅ん道にゃリョウワキい 手叩き水が流るるごつ溝もチャント なえゆうしたもんじゃ。『まちっとじ眺めもゆうなるき』『そうな』 ちっと安心したんか 声が元気ゆうなつた。振り向いたら野津原ん 宿場町が目の下え見ゆる。東に開けた宿場町にゃ流れ緩やかに 川が取り巻いちよるき 昔しゃ『府内ん小京都』ち 言いよったんもユウ解る。

『どけな ちっとダッタナ』『インゲ まあこんくれならショワナカロウ』『ふんとえ あんたも元気もんじゃなあ』話上手ん五助さんな相手う見ち あげたりさげたり 話芸が達者じゃき相手を ダラセンゴツ話しゅ組み立てちよる。心が豊かじゃきか 人情がコマヤケェンカ。

『アン上が伊塚峠じゃき』『そうな』 返事も軽やかんも本心なダツタンジャロウ。けんど行列ん時にゃこん峠も 帰り道なら気も弾うじよるき そげーヒズモなかつたろう。

伊塚かるん眺めは天気がよくしゃ ふんと遠うまし見ゆる。上りん旅なら又いつか来るかな……なごり惜しいごたる場所である。夜泣き地藏様は 乳飲み子ん泣くのによ 参っち山ん松葉おフスボラカシャ ご利益があるち参るしが多い。効き目があっちか お礼んお供えがあるぬ見りゃ やっぱ加護しちくれたんじゃろう。

『どうなソロソロ発つかな』 相づち打つごつ立ち上がるとコンダ ひとくだりん伊塚ん石だたみ道。阿蘇ん火山灰がここまじ降った 証が灰石になっちアツチコッチある。『あん煙りゃなんかえ』『あれな 炭窯ん焼く煙りで そう言ゃ今朝がた川原じ猫柳う 切りよったしが炭出しするち 言いよった』

紫煙が立ちのぼるんも のぞかな風情じゃが 働くしん苦勞は計りしれんもんがある。じゃけんどそれもイノチキ 人それどれん生き方があるき これも仕方ねえかな。馬ん足がヒョクヒョクしちもう降れちいた 石橋の側。橋の本ち言うきいかこん橋も『橋本橋』ち つけちやる。いつ誰がどげな訳じ架けたんか こげん一枚石ん橋。見事に尽きるもんじ 大水ん時ん水抜けまじ作ちやる。底盤が強いきビクトンセン まこち見事な橋じゃき名物なちよる。

遠方かる矢を射たところ ここまじ来ち貫にいたき『矢貫』ちつけたち 年寄りが話す顔にゃ自慢げな。そん気持ちもゆうわかるわな。橋う渡っちちっと上がると 右が福宗、左法泉寺じ 目の前ん高台にゃ矢貫神社。元は安永ん頃ん権現神社かる名前え変えち今になったそうな。

法泉寺にゃ修行僧が滝に打たれ 経を唱ゆるそん滝にゃ日輪月輪の彫り物 糸ウナギん生息なんかもある。寺域にゃ一石一字塔もあり繁美城とん 関わりもあっち若い僧ん 研鑽が続けられちよる。ここにも人間の生き方の 理念を追求する場所としち 人の集まる場所にもなちよつた。

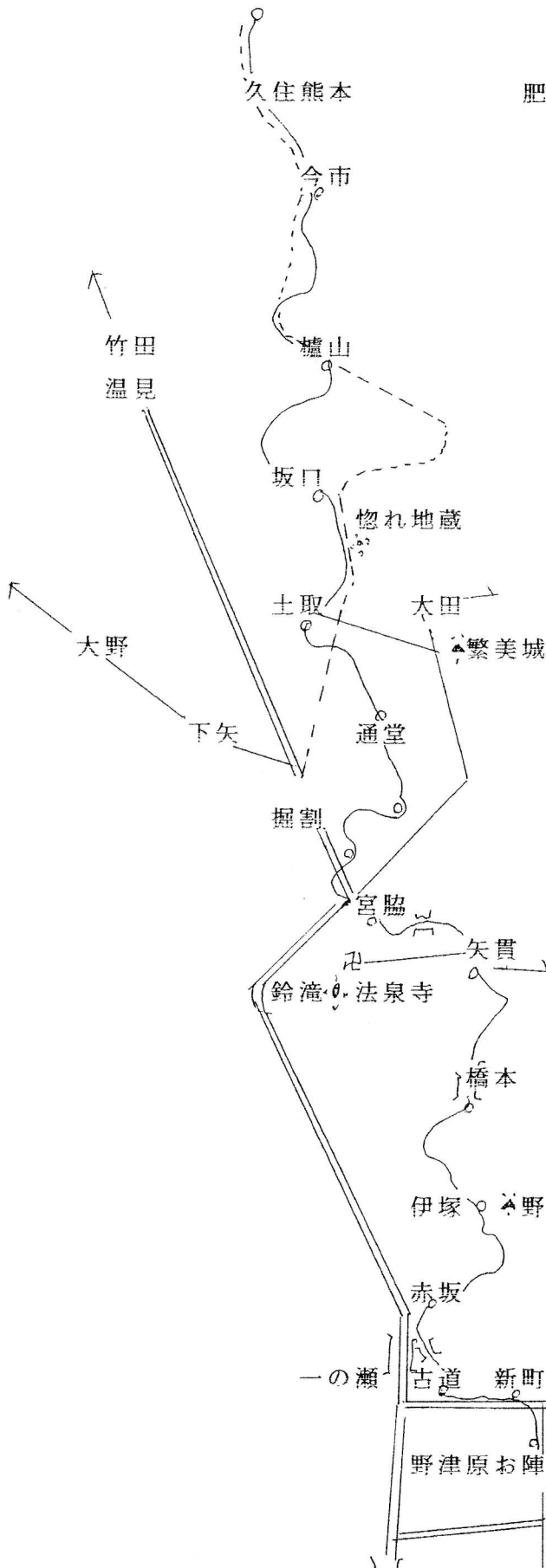
矢貫神社ん北べらう通っち イシカドを進むと太田川に
来る。底石が強いき板橋でん 日頃あケクシャいいもん。
『ありやあいい橋があるなあ』『じゃろうサッキン橋本橋
は 頑丈じじょうびいが ここあ優しい木の橋 なんか艶
めかしいなえ』 五助さんがん説明にゃ 真実せまる』





『俺どうん若え頃にゃコノヘンまじ ゆう夜遊びきち』
『りやまあーこげん所まじえ』 『そうでそしちピラピラ
ツウジ帰ったもんで』『怪我せんじかえ』 話が弾むもん
じゃき五助さん 思いで一た取っておきん話うしちくれた
。若えし同志が昼はなかなか合えん けんど思いがありや
なえ。夏の夜になっちえーと そんな時間がとれたが 話が
途切れんじもう夜更けになった。

『ありやもう遅うなっち ショワネエナ』『ダイジョウ
ブで 義姉さんが裏木戸あけち』『そうな すまんなえ』
門口まじ送ったあたあ わびしい束の間ん別れ。親父もそ
りゃ解ちよつてんムゲに 怒るのん色気ねえき 寝つか
れんでん目は冴えちよつた。カタカタ 音がしたち思うた
ら裏かる二つん影。『早う寝よえ あたあ知ちよるき』
『ご免な 義姉さん』『うんーん心配せんじいい』 親父
もほっと 一息すると大けな咳払いじ 寝ちいた。

板橋しゅ渡っち宮ん脇出た道あ こんだ上り坂おつづら
折れしち 矢の原に上ち行く。宮ん脇にゃ南かるは大野
かるん 秋葉山横通っておれた道が出る。太田かるん道も
ここにゃ集まる。野ん台んノロシ台ん早馬も ここかる出
よったち言う。秋葉山お左見ながらつづら坂お上ると通堂
に着く。ここまじ来ると涼しさが で一ぶん違うき高えな
あち思うが はじめはここに『お陣屋』ん 設営予定にし
ちよつたが 水ん不便さがこりゅ変更させた。防衛にゃ適
地じゃつたもんの 水ん苦勞はここまじ人間生活まじ 変
えちしまうたごたる。それじよかったんかん知れんが。

肥後街道 今市⇄野津原



-  街道筋
-  国道422
-  県道412
-  幹線道路
- 主要道路
- 川

今回は野津原からの道中を今市久住に向けて上る行程。肥後に向かうのを上りと言っていた。このルートは徒歩で約15キロのコース。

改良工事がされて旧街道の一部は通行至難で省略した道になってます。商工会青年部の開発で保存出来て大事な道が浮き彫りされています。

肥後か府内か 一の瀬渡りゃ
お国訛が 懐かしい ハ 七瀬のせせらぎ
サラサラ サラサラ ホイ ホイ ホイ。

神楽ばやしに 更け行く夜は
濡れて見たいよ 鈴ヶ滝 ハ 七瀬のせせらぎ
サラサラ サラサラ ホイ ホイ ホイ。

秋葉越えれば 火伏せの森に フロー煮えたか諏訪の灯じゃ
ハ 七瀬のせせらぎ。
サラサラ サラサラ ホイ ホイ ホイ。

竹の内ちゃ諏訪郷ん東ん玄関口 朝日がさしくうじデーにゃ
米もゆう出来よった。寒い冬んなんめ薪もんぬ取る これも百姓
んデーナ仕事んひとつ。そん薪物とりん名人がおっち。五助さ
んたあもう顔馴染みじゃき 時タマ合うともうトワズ言う。『よ
い山ん中えシャガミクウジ 仕事たしよんな』『しよるきなそれ
がモウフント 妙なふうにあるわい』 連れん旅んしが方言じゃ
るうけんども 掛け合いんごたる言葉んやりとりに 耳が楽しゅうな
った。

『何ち言いよるんな』『あれな 妙なふうにあるちゅうな
竹繩う作るにへネチ 具合う裂けんき困るち 言うんで』 言
葉たあ面白いけんども 聞いちよるとジワット 優しい気持ちが伝
わるごたる』『ふーん なるほど やっぱ方言ないいなあ』感心
したごたる顔 じゃが本当ん意味あ解らんじゃろう けんども聞く
そん表情ん奥にゃ 『今日もひどかるうが 気をつけち行っちき
なあえ』ち そげな思いがこめられちよるごたる。

『怪我にゃ 気をつけなあえ』『おおきに お前も気をつけち
馬にいいもんぬな』 人だけじゃねえ もうふんと思ひ合う。

◇◇◇方言説明◇◇◇

- 48 P シャン…しっかり。ツレノウタ…同伴して。コン…この。ソン…その。しゃんと…しっかりと。ヒジイ…苦勞して疲れる。こんくれ…このくらい。じゃが…ですが。巻きくっじ…巻きこんで。コホクレ…壊れて屑になって。コボレンジ…こぼれ落ちなくて。じゃろうな…でしょうね。ケンド…けれども。身ゴノミジャ…好んでした事。チャタ…少しは。手叩き水…ほんの少しの水。そうな…そのよう。ダツタ…疲れた。インゲ…いいえ。ダラセンゴツ…疲れさせないように。ヒズモ…大儀でも。
- 49 P フスボラカシャ…いぶしておく。どうなソロソロ…どうです はじめては。イノチキ…生活暮らし。ヒョクヒョク…リズムよく無理なく。ビクトンセン…しっかりして安心。糸ウナギ…細くて長いウナギ。
- 50 P イシカド…場所の名前。サッキン…先ほどの。りゃーまこげん…あらまゝそんな。ツウジ…飛んで。ショワネーナ…大丈夫ですか。ムゲに…非常識に。あたゝ…後は。つづら折れ…何回か折れ曲がって。ノロシ台…煙りで連絡する場所。
- 52 P フロー…長い弦性の豆の呼び名。デー…平坦な場。デージナ…大切な。トワズ…冗談を。シヤガミクウジ…しゃがみこんで。モウフント…あらまゝ本当に。妙なふうに…予想しないような成り行き。ヘネチ…曲がって。ジワット…静かに動く。ひどかろうが…大変でしょうが。きなゝえ…来てくださいね。いいもんぬな…おいしい物をどうぞ。もうふんと…本当にもう困ったもの。

方言とは言葉を縮めたり そっと包み込むような言い回して相手に伝えたり相手から聞いたり。そんな中で優しい心がこめられてもいます。トワズなんか場所ではアワズにもなります。

『水不足で御陣屋変更』

標高約150Mん諏訪郷ん 高台じ眺望はまこちいいが
水が ねえんが玉に傷。奥ん盆地にゃ恵まれち 町も拓けち
交通ん要衝んここが 役割も分担したんもゆう解る。火事に
ゃもうドンコンネエ気をつくる 子供ん火まわりが長う続き
よる。小高い秋葉山にゃ秋葉様を奉る 火伏せん神じゃき火
事も少ねえち言う。

府内かる今市熊本う東西に結び 別府庄内と大野日向を結
ぶ要。霜解けする道にゃ松葉なんか 敷きくうじ通るしたち
に喜ばれた。こん秋葉山は野津原8景ん7位、鈴ヶ滝ゃ2位
に入っちゃつた。それだけ場所もよかったき 後こくう熊本
に直進出来る 『熊本県道』そしち『国道422号』ち発展
しち行くこちなる。

諏訪郷は発展した所じゃき お茶が早うかる取り入れられ
ち 皆んなんイノチキにも生かされちつた。ある飢饉の年
じゃつた 米も出来が悪いにもっち来ち 麦もなにんかにん
悪かった。庄屋さんな困っち『米ん代わりん物じ年貢』ち
恐る恐るお役人に伺った。いっとき考えよった役人が 百姓
ん苦労もゆう解るち思うた 『代わりんもんでんいいから』

『おちゃのみでんよかろうか』『おちゃのみか よかろう
』 ほっと胸なでおりいた庄屋さん 『これからが大事ど』
思案泣き首じへモドリヨルト 五助さんが大野かる帰ち
きよる。『五助さん こうこうじゃ』 すぐヒツツカマユル
と食いつかんばかり。イットキ考えよったが ニタリ『じゃ
な 役人さんな代わりでんイイチ そげ言うたんじゃな』
『お役人さんが言うたんなら いいじゃねえな コチコチ』
『エー』たまがった庄屋さん それもそんはずじゃこと』

『いいち言うたんじゃき 悪いたゝモウ言わんわな』五助ん知恵にゃ 庄屋さんもゆう助けらるる。『隣んばあさんに頼みゃショワネェ アリゃ役者じゃき』話が決まると皆んなが心う一つにしち シコするこちなった。『茶の実しよわあるめえの』『今ならドシコでんあるき』

みんながそんな気になったき ケックシャ集まった。五助さんにゃもう頭あがらんのや。行く日にゃ加勢するこちしちみんなづり押しかけた。『年貢納めかご苦労じゃのう』何も知らない代官は 座って待っておると ゴソゴソ大人数が入っち来た。『代わりん茶飲みう納めに来ました』『……』代官がいつとき見ちよつたが ヨカラン状況にサテハ 五助ん知恵もあつたんじゃのう。

『茶のみたゝこれか』『へへー』『俵を開けんと解らんど多いごたるがそれか』『はい けっくしゃオオゲナシじ』俵ん口う開けたら中かゝる ばあさんが顔で一た。『なんじゃこりゃ 茶のみかこれが』『そうです 茶が好きじ ゆう飲みまするきハイ』ここまで仕組まれちよると もう代官も怒るにも怒られず 『こん年貢は食い物んがいるき 持ちち帰ちくりい 用事がある時や便ぬするき』『ははゝ畏まち帰ります』 笑いをえーとこらえち 代官も奥に入った。

厳しい時ん助けあいもやっぱ 人ん真心がありゃこすじ 五助も庄屋も誤魔化す訳じゃねえ それなりん協力はチヤンと わきまえもしちよつた。『五助ちっと草がシコッチノウ ついでん』『それ以上はもう言わんじょくれ いつがいいじゃろうか』『こんだお客が……』『いいです 明日皆んなづり一行きます』『すまんのや』『とんでもねえです』笑顔が 笑い声が人ん心も暮らしも助け合う。『へえ面白い代官やら庄屋さんやら』『世の中楽しゅういかにゃなえ』。

◇◇◇ 方言説明 ◇◇◇

- 5 4 P ドンコンネエ…どうもこうもない。敷きくうじ…敷き
こんで。8景…野津原村の頃に村内の8景募集で決
まった場所。こくう…ここを。もっちきち…その上に
。なにんかにん…とにかく。おりいた…おろした。へ
モドリヨルト…引き返し帰ってくると。ヒツツカマエ
チ…急いで捕まえて。イイチ…よいですと。コチコチ
…耳元で囁く。
- 5 5 P ショワネエ…大丈夫。アリヤ…あれは。シコ…準備。
ドシコデン…どれほどでも。ケツクシャ…結構。づり
…連れなって。ヨカラン…変な企てか。オオゲナシじ
…大きな大人なんかで。帰っちくりい…帰ってくださ
い。便ぬするき…連絡をするから。こらえち…我慢し
て。シコッチノウ…繁って困るから。すまんのや…気
の毒で悪いが。とんでんねえ…そんな心配無用です。

理屈は成り立たんかん知れん。じゃが貧しい年にゃ対応する
情愛がありゃ 恩は忘れんだけん義理も 弁えちよるもんじ
ゃき 五助さんの頼知も偉えが そりゅ理解する才覚ある
代官もそん上う行く まさにお互いが助けあい 支え合うか
るこす世の中 平和でんあるち言うもん。こげな気骨んしが
昔しゃ多かったんじゃがな。

ちょういと一服した二人ゃ 背中え陽を受けち
諏訪ん高台を 西に歩きで一たら村ん娘が 五助
さんぬ目ざとぅ見つけち 『あら 今朝は早えな
ぁ』『ありゃこん前ん』 あんまりエエラシイも
んじゃき 竹田かるん帰り買うた 1里玉を一つやった娘じ
ゃつた。『あん時ぁおおきに 今日はどこまじ』話が……。

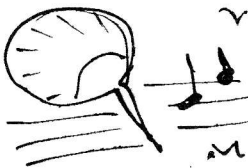
灰汁ジルじ洗たくする風景が 昔しゃゆう見られよったもんじゃ。ノコギン《野良着物》が土汚れじ いったきこん灰汁じるに 浸けちょきゃゆう落ちたもんじゃ。見よう見真似じ受け継がれた そんなしきたりかん知れん。冷て一水ん朝 ここじゃ地下水が湧くき 手に優しい 人呼んじ『洗たく学校』ち 言いよった。

戦時下ん百姓は苦勞話ゃ とても考えられんぐれえ苦勞しよった。そん中でん出征兵士ん家じゃ 年寄り女だけじ留守守る厳しい現実。変な誘惑が忍び寄るぬ はねのけち耐えた年月。そげな時にいつも 『やっぱ女は強い』が見せつけらるる。

ときたま勤勞奉仕が来る学生が 汗まみれじ働くぬみると 戦線の主人は今頃どんな……頭に描く切なさを涙かくしち 震いたたする夜明けは早え。



水番の定磐に座りくうじ 取られちなるもんかち 股う開いち目をむいた形相 まるで浮動明王んごたるに 威圧されち退散したちユウ聞きよった。人類を継承する為にゃ母性ん強さこそが 役目も果たしちくるるもん。昔しゃゆう『女人禁制』ち聞くが 女性を大事にする典型的な 尊い優しさが隠されちよる。親父が子供かるうち 参る間あゆっくりヨコワシイ。そんぐれん心くばりせんと 病氣なつたら どげするんか 考えちみよ。



ありゃ あん娘も年頃 盆踊りん日頃
た違う浴衣 ゆう似合うのやふんと。

『心が豊かじゃき年も感じさせん』

早起きかる始むる周辺までん 清掃習慣は身に染みちいた
特技かん知れん。健康こす何よりん幸せち言うが 健康に過
ごすにゃそれこす 日常ん心がけ 中でん心が豊かじねえと
叶うもんでんねえ。舅女とん葛藤もあつたようじゃが それ
にも負けん気が背中ういつも 押しちくるるき我慢辛抱が
出来たんじゃろう。

優しい旦那もそりい仲間入りした 巡り合わせん宿命は
こん人ん人となりゅ押し立てち 現在ん確固たる立場を証に
しちよる。高齢社会ん世話がゆう出来ち 繊細博学はそれを
ちゃんと 弁えもしち来たき今がある。人数ん多い団体ん世
話にゃ苦言も 風圧も無い訳じゃねえが それらを上手く抜
けられる 人間性も兼ね備えちよるき 不思議でんある。

周辺美化ん活動に褒められ 社会奉仕でん真面目に務める
誠意は 上手く言いまくちよつてん 実行の伴わんしたち
にゃ やっぱ見習う点も多いのじゃあるめえか。書く縫う、
手料理の技法、世話が気に苦にならないとか。自然体ん心情
は苦勞多かつた過去ん 心ん浄化かる湧き出る 輝きでんあ
ろう。じゃきさかしいんかん知れん。

健康が気になるけんど自分じゃ 心配ねえち定期的に医師
のアドバイス。気くばりしちよりゃ 心が豊かじありゃ病気
も 寄りついたりゃしめえき。いつまでも健康で明るい笑顔
は この人を年よりも美しゅうしちくるる。それは今まじ鍛
えた生き方ん ご褒美でんありそう。

世話を離るる時あ全て
止むるじゃねえじ 小出し細めち健康管理んテクニク 上
手にすりゃまだまだ元気 百歳も夢じゃあるめえきなえ。

女性の底力

2019

すすむ歩

本年もよろしくお願い致します

七瀬音頭の振りに執念

故郷の唄が出来る話に戦後の『七瀬舞踊団』の流れん魅力に心傾注しちよる者にしちみりゃ早うそん完成も待つちよつた。けんど音を作る場面になっち何んか進みよらんごたる。踊りだけじゃねえ詩吟も民謡もコナスつわものじ芯が強い苦勞人も待ちこがれよつた。

『まゝ出来んの！ 遠慮がねえき会うたんび言わると何か嘘んごたる夢が消えそうになる。『よし故郷集団じやろう』琴ん仲間に『どげえな取り組みゃ！』『いいぐれかやろうえ』トントン拍子にまとめ上げた。『出来たで』嬉しそうな顔じ深う頷くと振りん構想がもう脳裏を飛うじ歩きよるごたる。

苦勞すりゃお粗末じあってん味があっち情愛がこもる。心が通いあや一実りは大けなもんになる。『いっぺん見らにゃ』氣さくに声がかかる夕方『こいさでんいいんな』『いいぐれか』稽古場に鳴り響く『七瀬音頭』に乗せた振りが素朴な故郷ん状況を人情を見事醸し出しちくれた。

文化団体の役職に献身的に打ち込むそげな執念がここにも心捧げた振り。天才か自然にそうさせらるるんか目標に向かうと鬼神もこりゃ避け時にゃ優しい女性本能が艶やか舞台に浮き彫りされち目を奪う。したたかな精神力も生まれ育つた人生の教訓を素直に受け止めちよるんじやろう。

『おおきに』『ゆう出来んじやつたが』なかなかどうしち優雅に動くそん振りにゃ人間の魂がこめられち故郷ん人ん優しさ逞しさホロリ情けんイジラシサまじ包みくうだ包容力まじ表現しちよるごたる。盆踊りん輪が広がると人が人ん心を結びつけち夜の更けるのん忘れそうな……。

『盛り上げた大山車』

若えお母さんたちん気迫あ そりゃもう凄いや言葉がピツタリ
んごたる。大分ん七夕祭りい出るこちなつた。そん寄り合いが
あっちそれにゃ 銭もかかるもんじゃき 替成する いんにゃ
止めたがいい。意見がアングコンゲ飛うじ さあトゲスナ。
区長も困ちよつた。そんはずじゃ そげ一経費う貰うなんか
当てにもならん話。

じゃけんど若いお母さんたちゃ もう折角ん機会じゃき 夏
ん夢う子供たちと見てえ。こん機会うノウナラカシャ もう
とてんコゲンコタァあるめえ。親父も返事にゃにぶちよるが
本当は 出してえ気持ちがあ差しち 燃え煮えタクジリヨル。
嫁に来ち苦労しよる そげな中じ楽しみいしちよる こん参加
にゃ母親も子供も 一緒に出らるるもんじゃき 尚更んこつ。

何回か会議もあつた 寄り合いが又あるち ふれが回つた。
そしち とうとう曳きたつるこちなつた会議。もう夢が膨ろ
うじ家じ待つ 子供いや母親ん思いは どんくれ嬉しかったか。
長い夢にまじ見たんが えーと叶うたこちなつた。『決まつた
ど これかるオオゴトド』『ふんと……』

あたあ無言じゃつたが もう心中は誰よりも ゆう解る。顔
を見合わすと 『涙が滲んじよるごたる』『お前もど』二人
ん嬉しそうな そげな素振りん影にゃ 持ち出しもあるごたる
が 機会がありゃこす 『生きちよる証も残するきの』『そう
で こん子も嬉しそうじゃこと』『じゃのう そりいお前が
ん顔は もう別品に輪をかけちのう』『ちゃー……』。

夏ん暑さは格別じゃが 七夕祭りん話しゃもう 噂広がるき
油断も隙もねえごつなつた。思いで多い夏になりそうじゃつた。

夏ん暑さはもう考えられんごつ 暑いけど夏じゃき仕方ねえち割り切る。新調した法被姿はもう3年目 それがフントゆう似合うもんじゃき いちべ出してえ見せてえ そげな気持ちゅ押し立ててんおる。決まったそん日かる 子供も夏休みん時間めグワユウ使うち 親もジャガもう出るちゅう 気構えあ区内いっぺーに 渦まいちよるんが汲み取るる。

稽古も積み重ねた シコも何べんも見ちゃナオス それが又涙ぐましいゴツン毎日になった。『とうとう明日じゃな』言うしも言ワルルしも心あもう まだ見たことんねえ大分ん目抜きゃ曳きたてち行く大山車を あーでんねえ こげーデンねえち空想する。世話役あ何べんも確認したり 忘れもんなネエカちもう ふんと大事じゃつた。

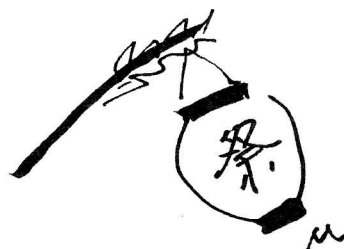
天気はいいんとショワネエデ 笑顔がくずれち『そいで』自分じ決めたごと タヘラクモ言いとるなる。深呼吸何回もしち法被にも一遍ノシオコシ。『車が来たき怪我せんごつ乗らにゃ』『あい』 元気ゆう返事ゃもう大分ん町飛うじよる。夕暮れが迫ちち分乗した車 一斉に会場に乗りくうだ。

8時 目抜き通りに雄姿を見せた ほかん大山車に比べち一回り大きいもんじゃき 飾りゃ素朴でん見ごたえがある。子供囃子ゅ乗せち曳くなんか 町じゃ珍しいんジャロウ 声がかかり声援が渦巻く。笛に合わせちコネ棒が右左い 巧みに揺れち動くち拍手が湧く。お母さんたちん太鼓、笛が交差しちよる舞台にゃ若さん姿体が 艶かしいまじん光景を輝かせち なしか情愛ん涙が滲んじ来る。エンヤ エンヤ エンヤ 可愛い子供ん衣装がナンカ 眩しいごと目に心に写るんも 迎えちクレタ大分んシタチン 優しい気持ちがとてん嬉しゅ 描きだされちよるんじゃあるめえか。

へモドル駅前 かるん道中にゃ涙に咽ぶ そげな顔が多かったごともある。

方言説明

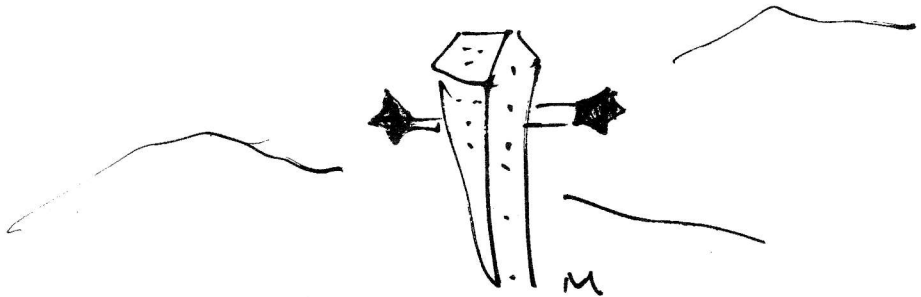
- 58 P までん…までも。すごすにゃ…過ごすにわ。それこそ…
それこそ。もんでん…ものでも。言いまくちよつてん
…言いたい事ばかり言っても。したちにゃ…していても
。やっぱ…やはり。あるめ一か…あるのでは。さかしい
かん…健康かも。しちよりゃ…していれば。しめ一き…
しないだろうから。じゃね一じ…ではなくて。あるめ一
きなえ…あるでしょうから。
- 59 P しちみりゃ…してみれば。そん…その。けんど一
けれど。よらんごたる…進んでいないよう。コナ
ス…多趣味にたしなむ。たんび…たびたび。やろ
う…取り組みましょう。いいぐれかやろうえ…よ
いですやりましょう。いいくらいか…よいですと
も。じゃろう…でしょう。じゃつた…でした。
- 60 P そりゃもう…それはもつとも。もんじゃき…ものですか
ら。いんにゃ…いいえ。ドゲスンナ…どうしますか。そ
んはずじゃ…そのつもりです。ジャケンど…ですが。ノ
一ナラカシャ…なくしてしまうと。コゲンコター…この
ような事は。どんくれ…どのくらい。オオゴトド…大変
な事。ふんと…ほんとに。じゃのう…ですねえ。そい一
…添えなさい。ちゃあ…あらまあどうしましょ。
- 61 P じゃき…ですから。いちべ…いっそう。グワユー都合よ
く。こげ一でん…こんな方法でも。タヘラクモ…自慢話
にも。ノシオコシ…アイロンがけを。こね棒…太い棒で
巧みにこねて移動させる。エンヤ…離子調子言葉。ヘモ
ドル…回転して元の場所に帰る、反転する。





どこの村でん町でん 『道しるべ』が辻にはあった。人
ん気持ちが優しいき ちょいと聞きてえ時 誰にも逢わん
と困る。そん時ゆう丸太ん棒ん頭うチット 削ちそこに
右⇒◇◇◇方面 左⇐□□□方面ち わかりやしい。ちょ
いとそん頭う撫ぜたな 『おうきに』ち思う気持ちかるじ
ゃろう。て一げ一青年団のしが しょったごたる。

記録ん少ねえどこん 村でん言い伝えち 受け継いだ話
があるもん。そん中にゃ本当にあった 話やら形やらが
今も生かされ 生きちよるんがある。そげな勿体ねえ話う
披露するんが 『玉手箱』 言い触らすんじゃねえけんど
知っちもらいてえ ありがたいち感謝する 所げな役も
させて頂こうち。



キラキラ輝く星んように あん人ん話 あそき一ある話
これじゃつたんな……そげな話。よかった 初めち聞いた
知った じゃき故郷はいいなあ。そげな人たちん そげな
仕事んおかげじ 今ん楽しい住みいい 故郷があるんじゃ
こと。

緑ん森 七瀬川んせせらぎ 私たちん故郷は 幾百年も
ん長え歴史う受け継いじ 今日から明日に 向こうち続き
歩いちよるんじゃろう。じゃきシャントしち 受け継いじ
行く責任もあるんじゃろう。

古くから地元大字下原、上詰地域農業『中核基地』的存在でんあった『原村信用購買販売利用組合』職員も地域内優秀な者揃い。子供ん出産ちゅうとすぐ駆けつけち将来ん為い定期を勤むる。販売品な生産元やら御屋かる仕入るるき格安じ受入れ 組合員にゃ安う提供も出来た。

電話も少ねえ時代じゃき 呼び出しにゃ放送施設利用も。そんな放送にゃバス利用者んため 10分前にゃ到着時間なんかも。そりい午前11時にサイレンじ あと1時間じ昼ん予告も農作業するしにゃ ふんと助かるち喜ばれよった。墨字ん上手いしが多いき 鮮やかん書体は羨ましがられた。

こげな中核基地があつたき 若者ん研究グループ『4日クラブ』が 青年団の活動かる女性部も 画期的な故郷づくりに 手腕も発揮しよった。そげな風習が受け継がれち 今も土地ん高度利用かる集団営農、ハウス園芸にん拡大しち行くな そげな素地もあつたし 努力ん賜物でんある。

世利川井路ん勉強に西部ん子供たち 笑顔じ『米は安うなつたけど 畜産とニラがあるき』 力強うじ頼もしい声。いち早う防犯灯設置じ事件防止 多様な時期にゃ到着した 農薬う自転車じわざわざ届けた。組合員と職員が一体となつち 盛り上げた組合も世相反映じ 町連合ん合併かる現在ん『JA』に そしち大分広域合併に移行した。

青年団の『素人演芸』『供養踊り』 大分合同新聞の疎開印刷発行なんかも こん組合の影からん伴走が 大けな役割も果たしたち思う。OOさん電話です。知らせて用事が早く整う あと10分じ大分行きんバスが来ます。なんでも無いごたる放送は当事者にゃ かけ替えんねえありがてえ事じ。心ん絆が里を栄えさせ 人ん心う和ませちくれよった。

『里の農休日』

片田舎の集落に古い文化財 そりゃ『後藤家住宅』保存に苦労も多いようじゃが 地元んしたちん常日頃ん気配りが そん影ん支えにもなっちよるよう。ここは杵ヶ原集落じゃが ここにゃ戦後まものう出来た 『農休日』がある。全国に呼びかけちイットキャ守られちよつたが やんがちそれぞれん事情もあっち やんがち消えちしもった。

そげな中じ確実に守った長え歴史。毎月16日は絶対休むそれが定着すりゃもう 前後に仕事う振り分くるき 何の事はねえ。当時ん婦人会んしが講演会 研修会 なんか開いち皆んなが参加する。忘れちよつた ここにゃ『とりめし』がある。地鶏ん肉に地から抜き取ったゴボウ 手づくりコンニャク にんじん そり一季節ん山菜 ふんともう美味しさ抜群。

正月にゃまず年寄りしが 3日はず泊まりがけ入湯になる。無理にするんじょのうじごく自然 こんだ3日頃かる若い嫁さんどうが行く。ちゅうてんのんびりゃせんとか 抱えくうだな繕いやら編み物んやら 本やらとにかくこれも自然体。家族んごたる小集落 離れた場所にあるそれもあるんか 皆んなが助けあい大事にする気風が 長年続いちくきたんじょろう。

世話役が研修会するち声か 一緒に参加すると熱がこもり意欲が湧くのん生き方に希望を 前向きに対応する気構えが寒村へき地じ営みあう心が育ったんじょろう。1日休むことじ鋭気をアイデアも英知も 浮かんじくるき 明日かるん生活に潤いも醸し出しちよつた。摂理に叶うた人間哲学でんある。

こん頃ゃ山芋が脚光うあびちよる。寒冷地う生かした営農は苦労 そん影かる滲みでち来たごたる 輝きでんあろう。

『120人の子供会』

恵みの光身に受けて 集う心の僕わたし 慈愛の園に微笑みて 我ら若草子供会……戦後いち早く発足した 子供会のイメージソング。敗戦の憂き目かる打ちひしがれた そげな農村の情景は当時としちゃ 頷くるもん。昨日まじ勝つ為にと作るもんめ 食べられん 米を供出して耐え忍ぶ農家 農村地帯ん人たち。

敗戦とともに多くの引き上げ者 復員軍人軍属たち日増しに 膨れあがっち一頃の激少人口が あっと思う間に急増した農村。いつも困りゃ農家になんとか 物はのうでん食べる最小限の物はあつたきか。心は荒ぶ気持ちは浮かん そきにゃヤミが横行しち農家を 食い物にする輩の多いことか。

せめて子供の世界にはこげな 辛酸は心の貧しさは なめさせとうはねえ。ち青年団有志が企画した『子供会』 発足にはつきもんの 罵り卑下も多かった。がそりゃ覚悟の出発じ 子供の心がどうかにかかちよる。3月すぐると大人の支援も好転の傾みいた。

早朝120人《病気や不調の子を除く》が 区内をかけ足はじみゃ引っ込み思案の子も 釣りこまれち参加する。ほんの初歩の試みゃ見事的中。毎週一回大けん家^ち借って お話会 これも徐々に盛り上がっち 古い空き家を貸してくれ 電気まで便宜してくるるごつ^ちなった。表に看板にも墨黒ぐると『若草子供会館』 板材も製材所が寄付してくれた。

5つの班には班長さん 会長も決まり滑り出しは 物めずらしさもあっち親たちも視線が 向けられるるごつ^ちなった。『決まりがゆう^ちなった』ち 言うちくるるしもあった。

早朝走りの時間が続く中じ 印象にのこったんが『初盆め
迎えた家』ん前う 走る時は『かけ声いいめえ』ち 子供
心にん気を使う優しさは 集団生活しちよる子供会ん 無言
ん躰教育ん現れかん知れんち思う。『風邪ひいち今朝これん
き』 帰り道見舞いに寄るのん 思いあう優しさなんじゃろ
う。

大分連合子供会にも入っち 春日公園じ交流大会があっち
バス利用ん時じゃつた。横断幕がね一き洗たく張り板に
書いたぬう張りつけち バスん『横につけちよかろうか』
おずおず尋ねたところ 何ち言うたち思う『いいで持ちき
よ』 そげ一言うと一緒に付けちくれた。ボンネットの前に
ゃ『鱧ばた』も 感涙しちもうふんとじゃあ。

交流会んあたあ大分駅まじ 行進しち駅前じ皆んなかる
見送っちもらう。外堀んバス待合所じ また洗たく板お付け
ち帰ったんじゃが まあ今思うゃふんとオジモンジャノウ。
その後いっときした 昭和**27**年5月に細田徳寿知事かる
ほかんしたちと表彰もされち 120人感激したもんじゃ。

導く人や幼き子 悲しみ嬉し分けあえば 緑の丘に花も咲
く 我ら若草子供会。あん頃頑張っち世話をした 班長さん
たちももう70歳代ん 地区じゃ中堅になった。子供会は今
13人チットサビシイケンド 多かりゃいいち言うもんでん
ねえ ほら言うじゃろサンショは 小粒じピリット辛えち。

くり返されち行く故郷ん片隅じ すくすく育つ里心にゃ又
いつかきっと 素晴らしい花が咲き 子供会が賑やこっ盛り
上がるじゃろうよ。それが繰り返してん
あり世の中ん 仕組みでんあるち思う。
無理せんごつすりゃ 長続きもでくる。



方言説明

6 4 P そんな…その。ちゅうとすぐ…言えばすぐに。やら…など。じゃき…ですから。たみ…為に。ふんと…本当に。こげな…こんな。そげな…そんな。けんど…けれど。ごたる…ようです。くれよった…くれていた。

6 5 P そりゃ…それは。ちよるよう…いるようです。イットキャ…しばらくは。やんがち…やがて。ここにゃ…ここには。ふんともう…本当に気がかり。するんじゅのうじ…するのではなくして。こんだ…この次は。くうだ…こみながら。

6 6 P 供出…戦前戦中に農家に強制的に 米を出させ不足の時には更に 米や代理のものでも出させた。のうでん…なくても。そきにゃ…そこには。はじみゃ…最初は。くるるごつ…もらえるごと。くるるしも…くださるしも。

6 7 P いいめええ…言わないように。これんき…来れないから。もうふんとじゃ…本当にいらいらして。あたゝ…後は。オジモンジャノウ…度胸がよいものじゃ。チツトサビイケンド…少し寂しいけれど。ほら言うじゃろ…よく言うでしょう。ピリット辛い…しっかりした心構え、効き目がある。

そっと取っておきん話題を 3つほのぼのした思い出です。古きよき時代の歴史はくり返され 受け継がれち行くもんじやろう。じゃき故郷は忘れられんち そこに新しい花も咲くんじゃあるめえか。平和がどんくれえ大事か 心ん豊かさも勿論の事じ。



民謡は唄じゃねえ 生活ん声じある。故郷にゃそげな
生活ん声が いくつもあっち 唄いつがれち来た。心
に染みこむごたる 唄にゃ 昔しんしの苦勞 涙 汗
が染みくうじ 唄いつがれ 大切にされちも来た。じ
ゃき 唄う時にゃ ひょいと思ひ巡らせ 振り返った
あん日 あん時が 走馬灯んごつ 甦るんじゃろう。

わしん思いは 宇曾山やまの ほかに木《氣》はねえ
松《待つ》ばかり

肥後か府内か 一の瀬渡りゃ お国訛が懐かしい
七瀬のせせらぎ サラサラサラサラ
ホイホイホイ

ホーチョ ヌベヌベ 今夜の夜食 早くヌバネバ
夜があける

ソレエヤソレエヤ ヤトヤンソレサ



人ん心い囁くごたる 故郷ん唄 そこにゃ哀愁もある
けんど 時にゃそれが 懐かしい幼い頃う 思い出させ
ちくるる 暦ん役目もしちくるる。唄は世につれ 世は
唄とつれのうち 川ん流れんごと どこまでも 続いち
ゆくごたる。リズムに心乗せち 今日もどこかじ 楽し
い時が過ぎち行く。

公民館の歌…『明るい茶の間』

- 1 目にも優しい 素朴な花が 2 青いお空に 平和の鳩が
村の茶の間に 咲きました 故郷の実りを 褒めてます
老いも若きも 幼子も 老いも若きも 幼子も
皆んな集おうよ 微笑みて 汗の幸せ かみ締めて
住みよい村を 作ろうよ。 喜ぶ村を 作ろうよ。

- 3 星の輝く 更け行く夜の
やぐら太鼓に 気も和む
老いも若きも 幼子も
心一つに 希望も燃えて
豊かな村を 作ろうよ。

故郷の十三夜

- 1 山また山の 故郷の
幼馴染みの 灯がうるむ
星を数えて あの空見れば
青い月夜の 十三夜

『母子船』

- 1 葦が揺れるよ 三日月様の
淡い光に 泣きぬれて
漕いで流して やつれた頬に
露が身に染む 母子船

- 2 深山りんどう 1, 2本
摘んだ昔の あの夢が
なでか寂しく 身に染みて
影も泣くよな 十三夜

- 2 遠いあの山 あの岩陰に
花の咲く日の 夢を見た
星を数えて もうみとせ
父を語った 母子船

- 3 思いではるか 故郷の
今宵輝く あの月が
母と妹の 横顔に
微笑むような 十三夜

- 3 波に流され 揺られて揺れて
明日の運命も 渡り鳥
せめて寝ぐらに しっかり抱いて
旅を忘れよか 母子船。

た. 田舎の歌



『可愛い菊の花』

『朝顔』

- 1 赤い小菊の花咲いて
秋は深みぬ柿熟れて
野辺の夏草枯れ果てて
小鳥の鳴く声もの悲し
- 朝顔よありがとう
よく咲いてくれた
白露に頭から濡れて
微笑んで
私の涙の目を眺めてくれる
- 2 白い小菊の花咲いて
童の胸に香り笑む
晴れたお空の白い雲
後を追うよな旅の鳥
- 朝顔よありがとう
葉の下からそっと
顔覗かせて
笑ってくれた花びらに
そっと接吻したくなる
- 3 黄色い小菊の花摘んで
母のみ前に捧ぐれば
いつか日暮れの茜雲
冬の近さが身に染みる
- 朝顔よありがとう
朝咲いてやがて散り行く
運命なれど
私はいつまでも
君の純情は忘れない

『野津原民謡』

- ハアー 田舎なれども野津原町は 53万石肥後領地
ソウジャナ ソウジャナ ソウジャガナ
- ハアー 今も残るか今市部落 お駕籠通った石だたみ
ソウジャナ ソウジャナ ソウジャガナ
- ハアー 命がけにて渡した川も 今は石橋自家用車
ソウジャナ ソウジャナ ソウジャガナ
- ハアー 大蔵大臣一万田さんは 野津原生まれの庄屋の子
ソウジャナ ソウジャナ ソウジャガナ

『迷路は唄う』

宇曾さんござるひだもちー 巨大迷路ちゅう
あんげ行ってん こんげ行ってん いき詰っち
非常口かる 逃げ出ち アツハッハ アツハッハ
来ち見よ 来ち見よ やっち見よ 霊山奥んパラダイス

昨日来ち 取れたスタンプは たった1つじゃが
今日は やり遂げち たまがった
いんじみんねえ 早う 言わんにゃ アツハッハ
アツハッハ
来ち見よ 来ち見よ やっち見よ 霊山奥んパラダイス

どけんしでん いつか一遍な 成功するじゃろう
歩いち 返戻っち 突き当たリャ
笑い転げち 腹が減る アツハッハ アツハッハ
来ち見よ 来ち見よ やっち見よ 霊山奥んパラダイス

春夏は山が 色変え 秋は柿が熟れ
しぶ柿 あま柿 まんじゅ柿
腹太食うち しゃんとやれ アツハッハ アツハッハ
来ち見よ 来ち見よ やっち見よ 霊山奥んパラダイス

『宇曾山様も』

岳ん御座所ん 御膝もちい 車千台とまるたあ
宇曾山様も 夢見たじゃろう どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

山は山でん 迷路ん山は 人じ一山でくるたあ
宇曾山様も 夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

昔狐んねぐらじ 今は人間様が遊ぶたあ
宇山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

餓鬼ん頃かる歩いた坂お 今日外車じ行こつたあ
宇曾山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

山が囲うだこん村里に 大臣様が生まれゆとは
宇曾山様も夢見たじゃろか どげじゃろか
ほんとじゃな どげじゃろか

『朝んジョギング』

葦ん穂波が 静かに揺るる
七瀬川原は 天高く
錦織り成す 愛宕ん山を
遠く眺めて 突っ走る

二の瀬ん淵じ いつもんように
恩師が作る 屋山城
力ん限り 声張り上げち
唄えば サギが舞い上がる

やかましいかち 瀬音に聞けば
気にしやおらん サーラサラ
アホーアホーち 鳥わらう
又も家路に ひと走り



肥後か府内か一の瀬渡りゃ お国訛りが懐かしゃ
馬に揺られち旅する人にゃ 馬子のひと筋心に染みる

肥後の糸屋ん吉兵衛さんな 京の修行ん今里帰り
秋葉越ゆりゃ火伏せの森に フロー煮えたか諏訪の灯じゃ

思い巡らす10年前ん 諏訪の街道じ病に伏しち
通り合わせた馬方さんに 助けられうい一夜の宿も

忘りゃせんけん一言礼を 捜す七瀬ん陽も西に入る
通り合わせた可愛い馬子に 捜す馬方尋ねち見りゃあ

そりゃ私の父親じょが 暮れに亡くなりあん世の旅に
なんじ無常な涙にぬれた 後を継ぐ娘《こ》ん肩抱き寄せる

七瀬ん里にゃこげなふうに 古い唄やら新しのやらある。
優しい心が寄り添ち来るごたる そげな街道を今日も 馬子
ん五助がいい声じ聞かせちくるる 馬子唄にゃ哀愁もある。
けんど優しゅうさると もうちょこっと立ち止まっち そ
ん気持ちに溶けこみてえな なしじゃろうか……

こん後ゃ街道物語りにも チリバメチ
ありますき読んじください。

野津原宿場町かる〇今市〇久住そしち
安蘇〇大津〇熊本まじ お供しゅうかな
今日は ひよりじ天氣がゆうじ フガイ
い日頃ん行いがいいんか。ゆうしちよき
ゃいい報いもあるもん。それが世の中
世の常なんじゃろうなえ ふんなな。



民話 伝承



野津原にゃ古い伝承、民話、物語、話なんかが いっぱい
残っちよる 夢とロマンの故郷でんある。

鶴見山が宇曾さんぬ 嫁にほしいち話があった。考えあげ
くにやっぱ 遠くにゃ行きたくねえち 断わったんと。じゃ
き鶴見山な悔しゅうじ 泣きん涙じゃつた。そん涙が地に染
みくうじ お湯が沸きでえたんと。世話した湯布山も責任ぬ
感じち貰い泣き。ここでん湯が沸きで一た。

もんじゃき あっちん方面にゃ 今でん湯が湧くけど
断わった野津原あ とっと湯は出らんそうな。

囲炉裏う 囲んじ話す 馬子ん五助さん どこかる聞いち来
たんか ゆう知っちよる。

貰い湯は昔しゃゆうあったものじゃ。どこでんここでん
風呂う沸かさんじゃつたき 煙りん出よる所にゃ 貰い湯に
行ったもんじゃ。近所ん年寄りかる ムドガラルル若い嫁ご
が 晩方隣んばあさんから 『こいさ湯に入りきなあ』ち
誘われた。

もう2日入っちょらんき 婿じょうに話すと『ほんなヨバ
レチクリャイイ』ち 賛成しちくれた。けど早う行く訳に
あいかんき 夜更けになっちしもうた。こそっと覗いち見
ると ばあさんな まだおけち待っちよる。『すみません』
小声じ言うと 『はよ入りよ さっき追い炊きしたきヌルは
なかるう』

自分が若え頃に苦労したんじゃろう 寝らんじ言うたこつ
待つ 涙がこぼるるごたるぬ 『ケビーコタネエ』『いんげ
いいんで おおきに……』

『ウナギん おらんごつなつた川』

昔かる久住ん山ん端っこが ここまじ来よるち言う諏訪ん里にゃ そりゃ美しい水が流れよつた。若え娘たちん洗う足ん白さが 透き通っち見ゆるき『他所んしが通る時ゃ足う洗うたりすんな』ち 親は心配しよつたそうな。じゃき皆んなも汚さんごつ気をつけち 魚もフトシコいつでん 泳ぎよつた。夏どもホドユウ釣っち サグッチ栄養ジヨウン足しにもしよつた。

所がじゃ ある夏ん事じゃつた。夕立雨んあたゝゆうウナギが釣るるち 皆んなこん時ゃ手ぐすねひいち 待つちよつた。じゃがドシタンカ ちとん取れん。おかしいのや……

春先ん井手普請があっち 『今日は貧な者んの入湯じゃきの』 誰かがこげんこつう言う。寄り合いん仕事じゃき呑気にボチボチすりゃいい』 皆んなも日ごろハリコムキ『今日は息抜きするか』 そげな考えじゃもんじゃき 仕事もハカドランし 仕上がりもお粗末こん上ねえ。

『もう止むるかのう ビドカッタキ』 世話役がこげなふうじゃき もう仕事ん跡あ見られたもんじゃねえ』 水は濁つたけんど濁しただけ。草も押し倒しただけじ 一時したら頭う持ち上げちよる。川ん中う飛びまわつたき タマガッタ小魚は逃げ回っち くだちしもうた。

長老人ウナギはとてん心配になった。せっかく今まじ仲よう人間と魚は 暮らしよつたになし今年しゃ こげんこちなつたんか。『こらしめちゃろう』 ウナギん話合いが決まつた。『いいかイトキ下に行っち 合図するまじ待つちよれや』 そん晩のうち皆んなづり 川下にくだちしもうた。

『今日は水がほどいいき』『ウナギ釣りゆしゅうか』いつもん所いシャガミコムト 竿うびよいと振った。ビク 引いた 思わんニタリ じわっと引き上げた。『りゃ ゴウソウジャ』 それはそれじよかった。次々なんと大けな木の株に引っかかち 糸まじ切れちしもった。

『なんや やんも取れんのか』 あっちこっちじ 釣りよった若えしも手ごたゃゴミか 木切か草が巻きつく。晩方合うしん話が広がった。『なにや……』『おかしい……』そんな噂がもう晩になると そこにこんげにひろがち 古老たちが『やっぱそうか』ち もうそん元こしゃ読めた。

『お前どう こん春ん井手普請の時ん裏戻しが 解らんかのう情けねえ』『……』『早う川ん水神様に断りう』。次ん日にゃみんなづり 川ばて一集まっち 御神酒供え悔い改むる誓いをした。『見よムゲネコサレ 泥水飲まされた上後が ユウナツタンナラともかく 元んままじゃねえか 手抜きすりゃ悪いんじゃねえか』『すみません』

お祭りしち一時した頃じゃつた 子供たちがビラビラ飛うじ来る。『どけたんか ヤンドドウ』『ウナギがおらんちゆうけんど おったで』『何や ふんとや』 古老ん目にも皺に入りもうさんごつ 流るる涙が。若いしたちも自分たちん 浅はかな行いに悔い反省。これかるは川をページに美しゅう皆んなじ『気をつくうやのうち』。

これかるは川が美しゅうなったな 言うまでんねえが魚と人間が 大事に助けあうこち心くばりしたき 今でん美しい川 汚さん川になっち 魚も安心しち暮らしちよる。白い足ん娘が自慢げに入る時 やっぱ助け合うことが 幸せん決まりにもなるんじゃろうち 『足ん白いなこん水んお影かな』

『竜の恩返し』

毎年水がたらんき米づくりに 苦勞しちよる今年もえーと
田植えも 終わっちほっとしたもんの これかる秋ん取り入
れまじ水ん世話が 氣になり苦にもなる。ある晩の事じゃつ
た 水回り来たしが田の中じ 何かがチャブチャブ水飲みよ
るごたる。『おかしいのう』 ゆう見たら竜ごたる。

タマガッチシモウチ 帰りよせんこんこつ 隣ん古老に話
した。『なにや そりゃ又どげしたんじゃろう』 古老もゆ
う竜が水飲みくるち 聞いたごたる事かあった。『よし俺も
明日ん晩に行っち見ろう』『お願いします』 次の晩に二人
が田のクロに待つちよつたら スルスル竜が田の中え入る。

『こりゃふんと竜ど』 ゆう見るとコンメー竜がおるんか
氣が立つちよる。『ありゃ子持ちん竜ど』 古老はじっと見
つめち水んへリカト 確かめよった。するとどうじゃろう
竜が水飲むんぬ止むると 頭持ち上げちこっちをミータ。心
じゃ濟まんち思うんじゃろうか。

古老ん耳にゃ『私は子持ちん竜です ドシテン子育てにゃ
田の水が欲しいもんじゃき 申し訳ねえけんどコラエテナ』
。そう言うのと頭さげちスルスル 山ん方に帰っちいった。人
も竜も同じ事じ子供可愛いさにゃ 変わりねえ母性本能じゃ
ろう。古老はじっと見送ると 『お前も水ん世話がヒズカロ
ウが 今年しゃのや あん竜に飲ませちゃどげーか』『えっ
秋まじもえー』 若いしは不服じゃつたけんど 今見ちよつ
た竜ん氣持ちも 何んか解るごたる氣にもなった。

若いしが古老ん言うこつ聞くのん 日頃世話にな
るだけにゃ断りも 出来んじゃつたんでんある。

夏ん土用に入ったもんじゃき 何んカニン水が欲しい時。
若えもんな古老にフシコロ言おち 家に行っちみたら病氣じ
寝こんじよる。『どけしたんな』『いんにゃあんまり水が少
ねえき ヤンがムゲネーキどっしたもんかち』『もうそりゃ
言いなんな わしも承知した事じゃき』『そうか』

そりゃ嬉しかったけど そげ一思うたもんの晩になっち
田のクロに来たところ 『濟まんことじゃなァ けんども
うショワネーキ 水は飲みにコンキ 水がいる時ァ遠慮ねえ
言うちよくれ ご恩返しせにゃ濟まんき』 古老は嬉しいや
ら 何ち返事したらいいか困った。けんど若いもんの水欲し
がる 気持ちだけは伝えたら 竜も痛みいっちこう答えた。

『いつかち思いよったんです 今一番水が欲しいんなら
コイサカル雨ヲ降らせましょう』 『本当え 助かるわな』
いつでん欲しい時は言うちよくれ それくらいしか出来んが
せめてもん恩返し』 そう言うたかち思うと 西ん空が曇っ
ち稲光りが ピカ ゴロゴロ 小粒ん雨が大粒に変わる。

田かる越し出るごつ降った雨 ピタリ止んで晴れたもんじ
ゃき 古老も若いもんもドンクレ 喜くうだことか 二人は
顔見合わせち『やっぱよかったのう』『ふんと……』もう
後は声も出らんごつなつた。竜も喜くうじジット眺めよつた
。それからは雨ん少ねえ時にゃ こん地方にゃ決まったごつ
夕立雨ん 潤いがあるもんじゃき あっこガタンシャいいな
ァち 羨ましがられちよつた。

秋ん取り入れにゃあんくれ 心配したんが不当な出来に。
『水様様じゃのう やっぱ竜神んご褒美じゃろう』『そりゃ
間違いねえち思うど』 秋んシノウが済んだ時 誰言うとな
ねえ『竜神ん社お作っちゃどげ一な』『そりゃいい考え』

★★★ 方言説明 ★★★

- 76 P そりゃ…それは。じゃき…ですから。ホドユウ…適当に。サグッチ…探りながら。ジョウン…滋養に。トシタンカ…どうしたのです。おかしいのや…変ですね。貧な者ん入湯…貧しいものでも平等に扱う共同作業。こげんこつ…こんな事。ホチボチすりゃ…ゆっくりしては。ハリコムキ…頑張るから。ハカドランし…能率が上がらないし。ヒトガッタキ…辛そうだったので。じゃない…まずい。タマガッタ…吃驚した。イットキ…しばらく。
- 77 P シャガミコムト…かがみこんで。ゴウソウ…ゴミや芥。やん…お前、あなた。水神様…水の神様。ユウナッタンナラ…よくなったのなら。ビラビラ…軽やかに飛ぶ。ヤンドドゥ…お前たち、あなたたち。入りもうさんごつ…いっぱいになって。デージ…大切に。つくうや…つけよう。
- 78 P チャブチャブ…水音たてて。クロ…田の片隅。ヘリカト…少なくなつてゆく様。ミータ…向いた。ドシテン…どうしても。コラエテナ…我慢してください。ヒズカロウガ…大変でしょうが。どげーか…どうでしょうか。
- 79 P 何んカニン…何でもかでもとにかく。フシコロ…苦情。ショワネーキ…大丈夫ですから。コンキ…来ないなら。コイサカル…今晚から。ドンクレ…どのくらい。あっこガタンシャ…あの地域の人たちは。シノウ…取り入れ。

竜神様は祠が建てられて お互いの幸せを念じるように 大事に毎年お祭りもされている。細くとも長くの人生のように お供えは『ウドン』がよいとか。生き物の命は大切にこそ 自分たちも大事にされるもの。飲ませた水が今度は頂き その作物が人の命を支えてくれる。頂きますは物の命をもらうものです。

『諏訪の夢とロマン』

諏訪郷には古い社ん諏訪神社がある。建久元年（1190）に 諏訪大明神が肥前に旅する途中 雲ん上じチョット疲れ気味ん時 あんまり周りん景色ん美しさと 糸を引くごたる川ん流れに見とれち 油断したタミ心残しち 供ん一人に『こん地じ我が心ゝ大切に守っちくれよ』 ち残したち言う。

諏訪ちつきゃ肥前なら長崎ん諏訪神社。お供ん神職やお供用ん『ヒトギ米づくりん お供もそこに残したちいわれ 今も尚近世まじ風習が残っちゃつた。※ヒトギ米づくりゃ特定ん家がしよった。ヒトギ田なんかん地名も。下向した人たちんや京都や 行政地ん中心かるが多いが 伝説的にこげな形じ 残っちゃんも珍しい。

全国に諏訪神社は多いが 信州と肥前とを結んだ ちっとカーブは描くが線上にあるんも 夢とロマンがある。太鼓橋ん奥にヌキがある。潜っちみるとデーブン長え 『長崎ゃ長え』た誰かが言うたとか言わんとか。とにかくコン穴に鶏う 追いくうだところ慌てた鶏ゃ 遥か向こうに見ゆる穴を 出口ち思うちバタバタバタ そん羽音が聞こえた別府んしが 目を覚めえたち言うきヒョイトスリゃ 高崎山まじ続いちよるんか。

祭りん晩に神楽が遅まじありよった 本殿の柱にまっ白い衣着たしが 真剣見よったがシマイニャ 自分もよっぽど嬉しかったんか 板敷き踏み鳴らしち一緒に舞いよる。そりゃ見たお客がタマガッチ神主に言うたら 『そげんことがあるもんかえ』ち 笑っちしもったとか。じゃがお客んや確かに見えたち言い張る。そこん家じゃ今年ん米がユウ出来たそうな。やっぱ諏訪大明神じゃつたんか 目に写った霊験が豊作になったんか。ここにも夢がありロマンが 咲いちゃつたんか知れん。

小舟に運舟が入っち来た。3日ぶりん舟にゃ海産物なんか積んじ 船頭もネヅリ鉢巻きがゆう似合う。ここかるわ米、アワ、大豆、麦、茶、を入れた俵が積みこまれた。舟つき場じゃ魚も買い手が多い。『ブエンナアルナ』『今日は関のがあるき』 拍手が起こったのん 待つしが多かるか。大豆やらアワん代わりん布、昆布が 帰り荷になる馬子もある。

いっときヨコウと舟は 下り流れに乗っち舟脚も早え。ここやら舟平やらが海に連なるんも 山と海がともにイノチキ出来る 神様ん肝いりかん知れん。野ん台かる眺めた海ん崎じ 魚取りしもこん港が イノチキう支えちよるたあ 世のなか持ちつ持たれちこす うまく行くもんでんある。諏訪にゃお茶もよきい 植えられちよつたき娘ん 茶摘み姿もいいもんじゃつた。

★ 諏訪ん恋い唄 ★

諏訪の出水の せせらぎは
渡る瀬もある 淵もある
苦勞承知の 私です
流す涙も いつしか尽きて
肌になしく 夢も消えそな 七瀬川

そんな貴方に いつからか
つのる想いが 切なくて
心燃やした 私です
寒くないかと 抱かれた肩に
花も咲きたい 欲が未練の 七瀬川

まこと捧げて 揺らす髪
越えた飛び橋 これからは
絆むすんだ 私です
離さないよと 背中に書いた
さざめ信じて 巡る月日の 七瀬川

『半夏至水じ田植え』

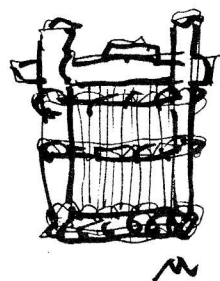
今年も暑い日が続いちサコン田は 植えつけがデケンジ困
ちよる。ちっとあった出水も乾きが早えき ヤキモキするけん
ど『日頃ん行いが悪いきか』 恨めしゅ空を見上げちゃもう
10日も過ぎた日ん夕暮れじゃつた。西ん山がちっと暗がった
ち 思うたらガラガラ とっぺんねえ時間に雷。

筵ぼししちよつたぬサゼクウジ 時もねえに小粒ん雨降り
稲光りよりハヨウ落ちてで一た。『ふんともう』ち口にゃ出たが
待ちよる雨 雨じゃきもう 『有難えなんちゃねえ』ポロリ
涙が一筋 『やんなどげしたんな』『いんにゃスポが入っち』
『スランジョ言う サコン田植えが出来ると』『そうとん』

時のめに大粒になっち降ること 壁なしん取りくうだ干し物
う もっぺん上がり口ほたりアゲタ。しぶきに濡るるんも今日
は苦にも気にもならん。『あんた水取りいかにゃ悪いんじゃね
えな』 奥かる夕飯んダンゴジル 炊きよる女ごしが言う。心
ん中にゃもう鎌をカタゲチ 田のくろ飛うじ歩きよる。

えーと田のくろまじ来ると 荒降った雨が具合う イロイタ
土う 湿らけ一ちちとずつ流れ回りよる。『おおきにおおき
に』 心ん中じ感謝する気持ちが 思わん笑顔になった。そり
ゅ見りゃもう滑稽じゃろうが。真面目ん顔になると流るる水う
右い左いかき分けち田の中う 回り出えた。

『水様様じゃのう』一人言が多いき 水も
責任め感じたんかサラサラと 流れち時ん間
に一枚はいっぱいになった。『よしチット下
に落とすか』 水口うちと踏みしゃぐと水
が ワキャガルゴツ流れ落ちて行く。



ヒト暫く降った雨が止んだ頃にゃ いいあんべーにサコン田3枚は一杯に水が張れた。暗くなるまじにゃ田拵え出来るど。水う具合ゆう止めち飛うじ帰ると 牛い鞍お乗せち追いかけて来たら 水ん折り合いも いい具合になっちよる。牛も水が入ったんなら楽じゃち 馬力う出えちイットキナカメ3枚がシロカキ済ませた。

畦は塗っちゃつたが水が入っち も一遍手直し踏み固めた畦も しゃんとなったごたる。『これじ明日は田植えじゃ』田植えヨコイも出来る 人並みん事じゃが水がねえと もうどうにんならし。そりい水がねえとドシコも米が……そげな秋んシノウん事う想い走らせち 夕暮れ道う牛う追いながら戻る 足取りんなんと軽いことか。

次ん日は夜のヒキアキ苗取り 朝飯ゆカッコムト牛がカクと 苗がほどいい所い投げこまるる。『さあ入らにゃすぐしまゆるき植ゆる所が ノーナルド。使い調子がいいに動くもんじゃき 昼になるまじゃ植えちしもった。ほんの昨日ん晩方ん雨が降った それだけじ物の見事い植えた 3枚ん田もドンクレ嬉しかろうか。

自然に感謝せにゃちゆう言うが 誠ちそん通りでんある。雨が降ったきこす時の間に 田植えが出来ち知らん振りもでくる。そげな巡り合わせん人生でんある。じゃき日頃かる心ん中え天気具合やら 物に感謝するやらせんと いつもドンナ手の振り回しじゃ 苦をみたわりにゃタイシタコチならん。

『やんかたサコもっ植えたんか』『そうで昨日ん雨んお陰じな』『そうか よかったのう 日頃みよ行いがいいきじゃろう』『そげんこたあねえけんど』『いんにゃ雷様が言いよったど あん若いしゃゆう働くきち』『またトワズ言う』

コゲナフウニ水路に頼らんじ 自然の水を大事に利用しち
稲う植ゆる田んぼ 『天水がかり』ち言う。年貢ん対象にゃ
ならんじやつたろう けんど水は天からん恵み頼りじゃき
全くん賭けでんあった。雨年にゃ、そしち日年にゃ予定通り
ん作は 当てにもならんじやつたが 年貢やら小作やらに
納めると本当に食べられるのは 限られちしまうが じゃき
ち錢稼ぎがそげえある訳でんねえ じゃき天水でん米う作り
畦にゃ『畦豆』う 植えち収入ん道う作っちょつた。

畦豆は地主さんでん苦勞しち作るから 小作には取らんと
言うが 実際はその分畦元ん米は 出来が悪くなっちょつた
き 果たしてどっちがどっちじやつたか。とにかく苦肉ん策
でんあったが 毎年作っちょると土も肥えて 作柄もゆうな
ったんは確かでんあった。

奥山ん日当たりんいい場に 水が湧いちよるき米う作る。
そげな場所がゆうあったが 雨年、日年んこつ考えた上でん
田植えじねえと 秋になっちとんでんねえ結末も。反対にこ
げな方法じ半分以上が取れたしもあった。いつん世の中でん
知恵と土地ん条件が左右しそう。

そげな話があつてん調子に乗らんじ 作っちくるりゃ不作
ん時は それなりん小作にしちよつた。そげな地主もおつた
き毎年 小作人とん楽しい会もあつたと。作る人によつち土
地も荒れんし 作らせてもらう事じイノチキも。そげな想い
会う良識ある地主もいたよう。地主さんじゃつて病氣も死去
もあるが そげな時になつちそん人ん 価値観人間性も醸し
出されたそうな。

欲もほどほどにせんと そん場所たゝ違う
所じシッペカエシがあるんも 世の中世の習わしでんありそ
う。情けは人の為ならずとは ゆう言うたもんでんある。

◇◇◇ 方言説明 ◇◇◇

- 81 P チョット…すこし。ごたる…そのようで。タミ…ため。ちっきゃ…聞けば。ヒトギ…お供え。米づくりん…米づくりの。ヌキ…トンネル。デーブン…たくさん。ヒョイトスレバ…もしかすれば。まじ…まで。着たしが…来たひとが。シマイニャ…終わりには。タマガッチ…吃驚りして。そげん…そんな。じゃが…ですが。ユウ…よく。
- 82 P 小舟…地区名前。ブエンナルキ…活魚があります。ヨコウ…休む。イノチキ…生活。
- 83 P サコ…狭い場所の田。ヤキモキ…いらいら。とっぺんねえ…予想外な。サゼクウジ…まとめて入れて。スポ…ごみくずなど。スランジョウ…冗談うそ事。ほたりあげた…乱暴に投げあげる。カタゲチ…担いで。イロイタ…乾いた。かき分けて…取り除きながら。水口…水の流れ出る口《みなくち》。しゃぐど…ペしゃんこにする。ワキャガル…賑やかに騒ぐ。
- 84 P ヒト…少しの間。イットキナカメ…ほんの少しの間。しやんと…しっかりと。ドシコモ…どれほども。シノウ…取り入れ。ヒキアキ…夜明け直前。カッコム…乱暴に食べる。カク…田植えできるように準備。ノウナルド…無くなるよ。ドンクレ…どのくらい。ドンナ手…手際の悪さ。タイシタコチならん…儲けにゃならない。トワズ…冗談。
- 85 P コゲナコツウ…こんな事を。錢稼ぎ…日稼ぎ、バイト。じゃき…ですから。どっちがどっち…定まらない。湧いちよる…自然に湧き出る。小作…借り賃。じやってん…ですけれど。シッペカエシ…裏戻し、報いが帰って。

昭和50年代頃までは《1975》 こんな風景も見られていたものの 先人の苦勞の証は自然に 消滅しているようです。



糸

針

縫

女

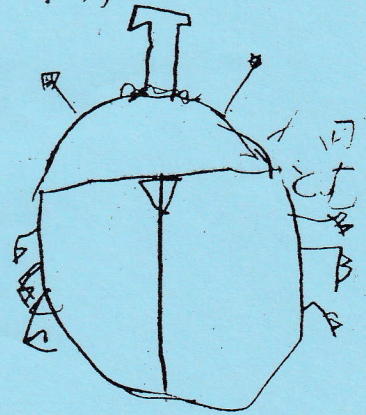
子

表

紙

器

こうぞう



かゝるとすし

方言の一つ一つにゃ 人ん心が 汗が笑いが染みち一ちよ
る。5 P かる⇒20 P に続いち 『方言単語あつまれ』
ちっと 並べさげ一ち見ました。

字は書けんでん 話すこたあ誰でん出来た 昔かる話す、
語る、これほず人ん心に入りこむなあ あるめえなあ。

話す…ハナス…離す…これよりか 語る…カタル…加わる
…仲間に入ること…一緒にいろいろん事うする。それが心
ん結びつき 信じあえる 絆にもなる。相手を信じるこた
あ 自分も信じらるる 第一歩でんある。信じ合う事によ
っち 世の中幸せになるもんでんある。

内ん嫁は…自分の家の嫁はじゃが 少し違う、格別。
内ん嫁も…自分の家の嫁は 人並み、平等。

こげなふうに 後に続く言葉単語じ 意味が少し違うんも
単語ん 組合せ方になる。

いいかえ…いいんですね、いらぬいのですね。

いいで…よいですね、わるいのですね

受け答えでんうっかりすると まるで反対が賛成になりか
ねん結末にもなる。

★★★ 方言単語あつまれ ★★★ 16Pに続いち方言単語
が集まっちゃうき まあ
暇つぶしい読んじみちょ
くれ。『ア』かる始まった方言単語 『アオ』に進みましょう
。

アオツヨル……物が青みおびる。★こんなふうにな青さが増
アオミガダタ……青みが色よくなって。すのを 元気に蘇生し
アオミガカッチ……植物が元気さを。て伸び伸びと 育つ事
アオガエッチ……植物の蘇生。を意味表す。

アオザメチ……顔色が蒼白に。★人の表情に使う方言で
アオグリー……青黒い、薄汚れ。無意識に使うが 決し
アオナツタ……青くなって失望。て悪い意味ではない。
アオナリヤ……熟れないままに。誤解される事はある。

アオータオモワン……会う予定はない、会わない意志が強い。
アオーヤ……会いましょう、会いませんか、会いたいが。
アオート……会っても、会ったとしても、会うのは自由。
アオーカ……会いましょうか、会うのはどうですか、再会は。

★ 使い回しによって多少の意味は異なるがたどり着く時は
同じ意味に結びつくもの。地域により相手によって 使い
分けるのも相手の心情を 大事にする心の現れかも。

アオ……青い色、緑とも言う、会いましょう、了解。
アオーデン……会うけれども、青くても、早いけれど。
アオガリヤ……青いうちに刈る、早がりすれば損でも。
アオアオシヨル……茂っている、植物が生き生きしている。
アオノキ……後ろ向きに倒れる直前の状態。
アオイキュ……息たえだえ、切羽つまって、冷汗。
アオゴミュ……青い色がある米、熟れが少し遅れた米、米選機下。

アカミュセーチ……赤くなって、血色がよくなって、瑞々しく。
アカガミュ……招集礼状、戦時かの徴兵指令書、赤紙に印刷。
アカセンゴツ……飽きないように、開かないように、施錠。
アガリクウジ……座敷に上がって、遠慮無く上がり込む。
アガサカシイ……顎が発達して、おしゃべりが達者、熱演。

アカルリャセンカ……飽かれないか、嫌われ者では、鼻つまみ。
アガリサガリガ……上り下りに苦勞、きつい階段、上り下り。
アガッチクンナァ……おあがりください、座敷に招待。
アカマンマ……赤飯、水引草、お祝の食事に炊く飯。
アガッチシモウチ……興奮して、上がっている、遠慮無く座敷に。

アガッチョル……上がっているが、緊張して、上に居る。
アガロウドチ……上がる準備を、上に進む、上がる気構え。
アガリグチャ……上がり場の場所、玄関口、石段の上り口。
アガリダン……階段。登り口の段、上って行く段々。
アカ……赤子、赤ちゃん、汚れ、ごみ誇りが付着した様。

アカベコ……赤いふんどし、赤い布で作った褌。
アカレタ……飽きられた、開けられた、愛想つかされる。
アガリバナ……上がり口に上がった途端、上がり口の端っこ。
アカフジョウ……出産した家や本人の事、嫌うのではなく大事にする意味から　このように言う。対して黒不浄
……死人があつた家や本人。

アカセン……飽きさせない、開けさせない、開かないで。
アカルル……嫌われる、飽かれてしまう、取り合わなくなる。
アカアカ……明るく、赤々と燃える、赤々と灯がともる。
アカル……開かります、開きますよ、開いていますから。
アカッチョル……開いている、開いているようだから。居る。
アカラン……開かない、開きません、閉まっている、留守。
アカレートン……開きますよ、開くはずです、施錠してない。

アキモセンジ……飽かなくて、開かない、開けられない。
アキグチャ……秋の始め、飽く前には、開けてすぐは。
アキドマ……秋になれば、開けておいては、空いた時は。
アギユウ……あげましょう、上にあげる、顎を出す。
アキー……開けなさい、あそこに、秋になって。

アキタルメエ……満足しない、退屈して、欲しがる。
アキンヒャ……秋の太陽は、秋の日照りは、すぐ暗くなる。
アキイチユウニ……開けなさいと言うのに、空けておけ。
アキニンカイリ……帰りは荷物が無いので、片道利用。
アキータユウタガ……開けよと言うたが、開くように。

アキヤシイ……すぐ飽く性格、長続きしない、変わり身。
アキユウマタニャ……秋を待って、空くのを、予約して。
アキヤスデン……長続きしないが、好みが変貌、移り気。
アギンチョウシン……話が上手過ぎて、調子者、不審な。
アギサイデーチ……顎だけは早い、話で困らせる。

あく

アクビュー……あくびを。アクトリユ……灰汁利用。
アクルゴツ……開けるように、空けるように、明ける様子。
アクシュウナ……悪の性格、陰湿な対応、嫌われ者。
アクタリャニアワン……悪ふざけは似合わない、つけ刃。
アグンナキオツキ……調子に乗らないように、奥の手危険。

アグロケーチ……足を崩しゆっくりと、足を楽に座る。
アグサイデーチ……顎が出しゃばる、すぐ口を出す。
アグルサグル……嘔吐や下痢する、調子に乗せられる。
アクギユ……根ぼり葉ぼりしっこく、追い詰める性格。
アクグレワ……上澄みは取れ、余分なものは邪魔になる。
アクコリニャ……時間が立てば、様子を見て、ままして。 66

アクジマイ……………開けたと思うたら終わり、勝負が早い。
アクガアッチ……………一言苦味を言う、齒に挟まったような。
アクタン……………悪口、苦々しい言葉、憎しみのある言葉。
アクタ……………ごみ、こぼくれの物、役に立たない雑な物。
アグルネキ……………上げている側、渡している側。

アクヌキュ……………苦味を取る、不純物を取る、除去する。
アグル……………嘔吐、あげる、差し上げて、渡す、上に挙げる。
アクマ……………明ける間、開ける間、空ける間、開幕前。
アクンナラ……………飽くようなら、空くのなら、開くんなら。
アクマジャ……………飽くまでは、開くまでは、空くのなら。

あげ

アゲンコツ……………あんな事を、あのような事まで、知らぬ事も。
アケンコニ……………あっさりと、包み隠さずに、打ち明け話。
アケー……………赤面、赤い、明るい、赤色、真っ赤な、めだった。
アゲマユウ……………小作米、年貢米、借地料、納め米。
アゲミヨソウ……………それ見たか、解っていたのに、油断して。

アゲクン……………その上に、予想以上の、信じられない結果。
アゲンフウジャ……………あのようにあるから、言うを聞かない。
アケノン……………あっさりと、正直に、くわしく話し手。
アゲボケチ……………あのように鈍感に、忘れぼっくなって。
アゲリュナエ……………あげられましょうか、上げてもよいか。

アゲタチャ……………差し上げ。上げました、値上げして、嘔吐した。
アゲンサネデン……………あちらの方にでも、方向に行ったの。
アゲユウタニ……………あんなに言うたのに、注意したけど。
アゲクンハチ……………その上に、結果として、不始末で。
アゲンコトンジョ……………そんな心配は、遠慮せずとも。
アゲカキュ……………上げかけていた分、揚げていた物です。

あけ

アゲクン……その上に、その結果で、結局は、予想違いに。
アゲコゲ………いろいろな意見、あれやこれや、意見続出。
アゲシノ……上げたばかりに、やっと済んだと思ったのに。
アゲコナス………挙げた、揚げてしまう、無事上げました。
アゲサギユ………上げたり下げたり、正確にしないと。

アゲスグリヤ………上げすぎて、多ければよいでもない。
アケボ………あけび。アケチ……開けた、開いた。
アゲノンコ………あっさりと言う、遠慮無く、隠しをせぬ。
アゲナシ………あんな人たち、あのような人、不審もある。
アゲヨセン………揚げるに手間どり、時間が足りなくて。

アゲサカヤ………昔の酒小売店、卸やから仕入れた酒屋。
アゲンシ………あのような人たち、親しみの少ない人たち。
アゲンシュ………あんな人たちを、気心の知れぬ人たち。

あこ

アコーモンナラ……開いたら、飽いたんなら、雑になるど。
アゴガデル………疲労困ぱいで、一休みが効果、我慢限界。
アコヌレ………赤く塗る、目立ちたがり、
アゴサカシイ………文句が多い、しゃべりが賑やか。多弁。
アゴンジョウ………言うことは一人前、実行が疑問、口先。

アコギネエ……無理強いする、くどくど繰り返し、根性悪。
アコンシャイイカ………あの家はよいか、あの人たちは。
アゴサキヤ………しゃべりは旨いが、実行に疑問。
アゴタンガ………実行が、しゃべりは賑やか、嫌われ者。
アゴカル………しゃべるのなら負けない、人望が今一。
アゴボネ………顎が達者で、外に利用できれば素晴らしいが。
アゴンサキヤ………人使いが荒い、理屈に合わせないと。

アコゲモネエ……無理強いする、横車を押し通す、強引。
アゴンジョ……言うばかりで、実行が伴わない、信頼が不安。
アコゴタル……飽いてしまう、退屈になる、時間を持て余す。
アゴガサキデケタ……喋りすぎると人は言うもの、信頼喪失。
アゴズモウ……よからぬ風評の槍玉に、喋り負けしない達人。

アコギ……無理強い、くり返した嫌味、嫌われ者の代名詞。
アゴタンデン……顎でも、狙われる場所、昔の軍隊の罰直。
アコーデータ……赤く出す、祝いの印、赤飯などで祝う。
アコンシャ……あそこの人たちは、あの家の人たちは。
アコンコハ……あの家の娘は、あの家の子供は、噂があると。

方言単語あつまれ…いかがでしたか 385語あまりが『あ』行の『ア⇒コ』まで並びました。勿論の中には方言でない言葉、差別用語もあると思います。が方言集ですので敢えて 入れました。記録に残す性質のものですから今回消されると永久に 失われる消え去る そんな思いがあるからです。続編№12号にも 引き続いて『あ』行の『サ⇒』を入れる予定にしています。

今回もご愛読頂き ご支援ご協力に厚くお礼を 申しあげます。先人の使った古い生活用語の 方言をこれからも調査しつつ 追加して後世に残したいと 頑張っ て行きます。心より感謝申し上げます。会員の全て手造ですので 不手際が誤字があると思いますが 『記録として残す』 そんな趣旨にご賛同の皆様がいらっしゃるから 会員も励まされて継続を 続けてまいります。ご自愛の程をご祈念申しています。



△△△ 五助さんの『あげん話こげん話』 △△△

荒木谷う下っち石合まじ来たところ テンショムショ腹
がセキデータ。『コイタ困ったコンニャクじゃ』 側ん桑
ん木に馬おつなぐと 物置小屋にズリクウジ横いなった。
顔うシカメシコしかむると 齒を食いしばっち堪えたけん
ど ドウシュカ餅なっちよつた。『そうじゃ あん薬う』
ち こん前乗せた坊さんが お礼にちくれた薬うヒョカッ
と想いで一た。

そりゅう飲むと又横になった。ツルッ……何か奥ん方じ
藁がワヤワヤしよる。チョコット薄目をあけち見ると 若
え娘がじっとコッチュ見据えちよる。ビクッ…じゃけんど
声う出えちヒョイト こん娘がトテンネーコチなりゃ ム
ゲネエチ思うた五助さん じっと息う殺しちかすかにそん
格好 見守っちよつた。

ま1つ影がムクムクしよる。りゃー若え男と娘がここじ
五助さんも 生唾う飲みこむと『困った』ち 思うたけん
どもうドゲスルカナエ。『ママヨなるようにしかナルメエ
ナ』ち それでん動き回るとオオゴツ 作り立つるきここ
お我慢のシドコロになった。

じゃき気がつかんのか娘は 野良着にち一たワラシビュ
ハライ落としち 帯をほどくと着物うイキナリ 脱ぐとそ
こじウップルウタ。『わぁあ』出そうん声うえーと 堪え
ち口う手じ押さえち 次ん動作ん着物下んイモジュ。ハタ
ケタチ思うと両方に開いち バタバタ。そん匂いまじが鼻
元い飛うじ来た。『もうふんと』心ん中じ言う。

気持ちが

ゆうなったんか そんままイモジュ戻しち野良着物う…

着こむと大けなあくびゅした。足もとかるムクッと出た
猫が『ニャンー』 『ミケ目がさめたんなイヌルデ』
『ナンジャ猫と昼寝か そりしてんタマガリカスノウ』
娘は五助さんにゃ気がつかんが 裏口かる出ち桑ん木
に馬が ヒヨットスリャ何か思うたか。

裏べらじ隣んばあさんと 『ミケおったんな』 『うん
農小屋におったき 一時寝ちよつたらツルット』 『晩な
遅うまじ繕いしよったき 眠たかったんじゃろう』 『…
…』 『若え時や皆なおなじで』 『そうな』 『そりしてん
こん馬あ 一の瀬ん五助さんがんじゃねえんかな』 『え
馬が』 娘も吃驚したごたるが 話しに巻き込まると
タイヘン オオゴツ 早う帰らにゃ……。

いっときしち回りが静まったき ゴツと這い出したら
バアサンが そき一待ちよる。『五助さん……』 『お
今日は天気がいいのう どげえかサツカシイカ』 『アア
サカシイデ』 にやにや笑いよるんわ 何か言いたげな
顔。五助さんもバツが悪かったが 下手な言い訳はかえ
って悪いもん そり一信用サレテンおるき。

馬う引いち山中まじ来ると 後ろ向たが誰も来よらん
ごたる。『ああ危なかったもう』 五助さんも冷汗三斗
ん想いじ 腹痛もいっぺんにユウナッタ。これも坊さん
にした親切んご褒美。そりい小屋んなかん夢も日頃ん
行いが吉と出た訳でんあった。

『よこわせち悪かったのう』 馬に話しかくると長い
顔寄せ 鼻すりつけち『ニンジン1本じいいヒヒーン』
とまあ言うたかどうか それにしてん束ん間ん楽しい夢
も 見たなあ間違いねえじゃろう。

△△△ いっぺんしちよくれ △△△

五助さんな用事が多いきヨッポズ 気をからげちよかにゃ忘るる事も多い。晩方早く帰りよるんを見た 顔なじみん娘が呼びとめち『今日は早えなあ 暇ならこん前ん』『そうじやつたのうトット忘るる…』『じゃねえかち思いよった 今かるじゃ悪いな』『じゃのう お前はドゲーカ』『イイデ』

よっぽずんこつ頼んだんじゃろう ちっと顔赤らめち言うき 五助さんもこれかるなら しちゃらにゃなるめえち覚悟した。『暇いらんき 馬あこきいつないじょこう』 気楽なもんじ柿の木繫ぐと手拭いじ ホコリュ落としち内緒口 まわると囲炉裏んそべ ずりあがった。

『へえもう出えちよるんか』『そうでセワシカロウキ』ジツト撫ぜちみると柔らしい。『こりゃふんとそりーうぶ毛んこたるのう』 手元う覗き込む娘はもう 習う喜び興奮気味じチットデン早えがイイニち 待ち構ゆる。年頃になっちほかん皆んなは土手に 出来るち言うにナシカ出来ん。

それも一人じゃ出来んし チュウテン誰でんかれでん習うな チット気オジュウモアッタ。時々こそっと見ちよると二人じサッサット旨い手さばきじ そり嬉しそうにしちよるんなもう 腹がたつやら情けねえやら。そうこうしよったらもう15になっちしもった。

五助さんにずり寄っち『早う早う』ち 気が焦る。皆んなが帰らんナカメ覚えちよきてえ。五助さんなソゲンコタとんじゃくねえごつ 柔らけえもんじゃきか 撫ぜまわしち手先う 確かめちよるんかん知れん。『まあ急くな慌つる蟹ゃ穴え入り損なうち言うど』



『そうな けんどうチンシドウが帰ると……』『じゃのう』
娘ん気持ちも痛えはず解る。手元に広げサゲータんを握り占む
ると 娘ん手をじわっと引き寄せた。荒仕事んじょしよるき
荒れた手じゃが若さがある。それが黴ん手にあ熱ちいくれえ。
『じゃー五助さんがん手は温きい』『そうか お前が若えきの
う俺も若返るったんじゃろう』

『いいか こん手をこきーやっち』『どげーえ こうな』
言わるまめえすべすべした手先が ぎこちのう動く。見た事あ
あってん したこたねえち言う ウブ娘じゃきか ぎこちねえ
手裁きい五助は 何とん言い知れん純情と 哀れさも感ずる。
こん年なりゃコゲナコタァ もう朝飯前んはず ウブもココマ
ジ…けんどもあ乳臭え名残りもあるごたる……。

『ふんとお前ゃウブちゅうか 純情じゃのう』『……』
そうでとは言えない娘の心情 それがいいんじゃが物は程々で
んある。母親が早く世を去っち 父親や祖父母とんイノチキじ
きちんと育てられたからか シモウタコツ 羨んじゃつたち
親も改めち反省もするじゃろうが。

両方ん手にコゲエかけち ほら両方の小指う引っかけち そ
こ そうそう上かる押さえち 両方に引っぱると ほら出来た
じゃねえか。『あゝ出来た』『次』 はじめち出来た綾とり
毛糸ん柔らしい指先ん感触 スルスルち滑る指の温もりが 今
望み叶うち出来上がり夢が結ばれた。頬に一筋光る涙跡。

『いっぺんしたき覚えたか』『まゝな』 あどけねえ横顔に
『いつまでん優しい気持ちじ』ち こそっと
囁きかけたら『おおきに五助さん』 それは
心から嬉しそうな気持ちが 溢れた言葉でん
あったごたる。



あとがき……方言調査に取り組んで 15年が過ぎました。

収拾した方言単語も約12000語 勿論その中には方言ではない、又は差別用語で使われない、などもありますが『方言集』の性質上挿入してありますので その点はお含みおきの上ご了承ください。古い生活用語を先人が大事に使い 過ごした言葉の代名詞 失われる消え去るなど 惜しまれて余りあるからです。

今回から『1』方言単語あつまれ…今まで出た単語からさらに広がる 読み方呼び方 意味の異なるものなどを 多く取り上げて『あ』⇒アから『あ』⇒コまで並べました。

『2』五助街道物語では 平成19年度に商工会青年部が旧街道をつぶさに切り開いた 『肥後街道』を野津原一の瀬から⇒矢の原まで 周辺の民話伝承 物語り 夢とロマンも織り混ぜて 今市小無田までを5回に別けて 掲載の予定。

故郷野津原のよさを皆さんで 楽しんでいただきたいと思いつつながら街道を熊本に向けて 歩いて行きましょう。昔日の面影を追いながら移り変わる 故郷は進捗する大分川ダムを 起爆剤にしてかつての 『府内の小京都』の夢実現に 結びつけたいものです。

『方言子供の世界』は 盛んになった読み聞かせ 読み語りから選んで故郷の民話 伝承 かたりべ などを解りやすくした読み物。女性の底力は逞しく生きる 女性の片鱗の姿を写し出して行きます。玉手箱には先人の苦勞 妙味 技法など心に生きている題材を お知らせする予定です。

素人集団の調査編集印刷製本 全て手づくりのお粗末な故郷の方言集ですが 今だから残せるのだと思います。残す執念にご愛読の皆様的情愛が プラスしてここまで辿り着きました。引き続きご支援お願い申し上げます。次回のご案内は次ページをご笑覧くださいませ。



野津原方言集…『続編No 1 2号』は
平成22年の秋発行の予定です。通算
22冊目になりますが ご愛読の皆様
があればこそその 古い生活用語の保護
継承と自負しています。

内容概略…五助街道物語《野津原から今市までのかつての
肥後街道を歩く 2回目は矢の原⇒櫛山まで》
女性の底力…逞しい姿。玉手箱…貴重な資料か
らそっと。ふるさとの歌…懐かしい哀愁込めて
。ちよつといっぷく…思わず笑顔がほころぶ。
民話伝承…懐かしい故郷の隠れた話。

方言子供の世界…読み聞かせ語りなど。ふるさ
との味…取っておきの妙味隠し味。方言単語の
集まり…『あ』のサ行から。などの予定です。

次回続編No 1 2号の 表紙画は後藤ヨカ様のご協力です。

.....

野津原方言調査会 大分市大字竹矢 矢の原
☎ 097-588-0572
事務局 大分市大字野津原 本町
☎ 097-588-0092

スタッフ 会長 小野寿祐
佐藤源治 那須政子 赤星ヨシミ

続編No 1 2 発行予定…平成22年秋

